

平成27年度

かながわ文化芸術振興計画 年次報告

平成29年1月

目 次

I	かながわ文化芸術振興計画 年次報告について	1
II	重点施策の実施状況	
	重点施策1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用	3
	重点施策2 次代を担う子ども・青少年の文化芸術活動の充実	6
	重点施策3 国際文化交流の充実	14
	重点施策4 文化芸術事業の発信力の強化（マグカルのブランド力の向上）	16
	重点施策5 文化芸術の振興を図るための環境整備	22
III	基本的な施策の実施状況	
	1 県民の文化芸術活動の充実	24
	2 文化資源を活用した地域づくりの推進	36
	3 文化芸術の振興を図るための環境整備	41
IV	進行管理のための参考指標	
	・ 県立文化施設利用者数	46
	・ 文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度	47
	・ 県立文化施設の利用率 （県民ホール・神奈川芸術劇場・音楽堂・かながわアートホール・青少年センター）	48
	・ 県立近代美術館の作品蒐集管理状況	54
	・ 過去1年間に美術鑑賞等の文化芸術の鑑賞・活動を行ったことのある人の割合	55
V	年次報告のまとめ（文化芸術振興審議会意見）	58

I かながわ文化芸術振興計画 年次報告について

1 かながわ文化芸術振興計画年次報告の位置付け

県はかながわ文化芸術振興計画（以下「計画」といいます。）について、平成 21 年 3 月に策定、平成 26 年 3 月に改定し、平成 26～30 年度の 5 か年間に取り組む「重点施策」及び「基本的な施策」を掲げ、取組みを進めています。

この年次報告は、それぞれの施策に係る平成 27 年度の実施状況について県文化芸術振興審議会に報告し、御意見を踏まえまとめたものです。

このうち、重点施策については概要を 2 のとおり整理しました。

資料の構成は、「重点施策」（3～23 ページ）、「基本的な施策の実施状況」（24～45 ページ）で整理しています。

「II 重点施策の実施状況」（3 ページ）

計画の施策体系のうち、「重点施策」と位置付けている各施策の実施内容を記載しています。また、その効果、課題、今後の方向性について、記載しています。

「III 基本的な施策の実施状況」（24 ページ）

計画に掲げる「基本的な施策」に位置付けられている各事業の実施状況について、その概要を一覧にして記載したものです。

「IV 進行管理のための参考指標」（46 ページ）

施設の利用者数、利用率など量的なもの、文化芸術に関する県民の意識など質的なものの両面から、それぞれ関連するデータを記載しています。

2 重点施策の実施状況の概要（詳細は 3～23 ページに記載しています）

「重点施策」に位置づけた各事業の平成 27 年度実施状況等について、取組みの内容、工夫点等を中心に整理し、その概要を次のとおりまとめました。

重点施策 1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

小・中学生向けのワークショップ、歌舞伎教室等の伝統芸能の体験・鑑賞機会の提供や、民俗芸能祭の開催、文化芸術活動団体への助成等を通じた発表機会の確保などに取り組む、伝統芸能に対する県民の理解を深めることができた。

重点施策 2 次代を担う子ども・青少年の文化芸術活動の充実

県立文化施設での子どもたちを対象とした公演、展覧会の開催とアウトリーチによる鑑賞普及事業を実施し、子どもたちが文化芸術に触れ、関心を持つ機会を提供することができた。

重点施策 3 国際文化交流の充実

神奈川芸術劇場における国際共同作品の上演や舞台芸術関係者のミーティング、三県省道（中国・遼寧省、韓国・京畿道、本県）のネットワークを生かした文化交流の取り組みなど、相互の文化に対する理解を深めることができた。

重点施策 4 文化芸術事業の発信力の強化（マグカルブランド力の向上）

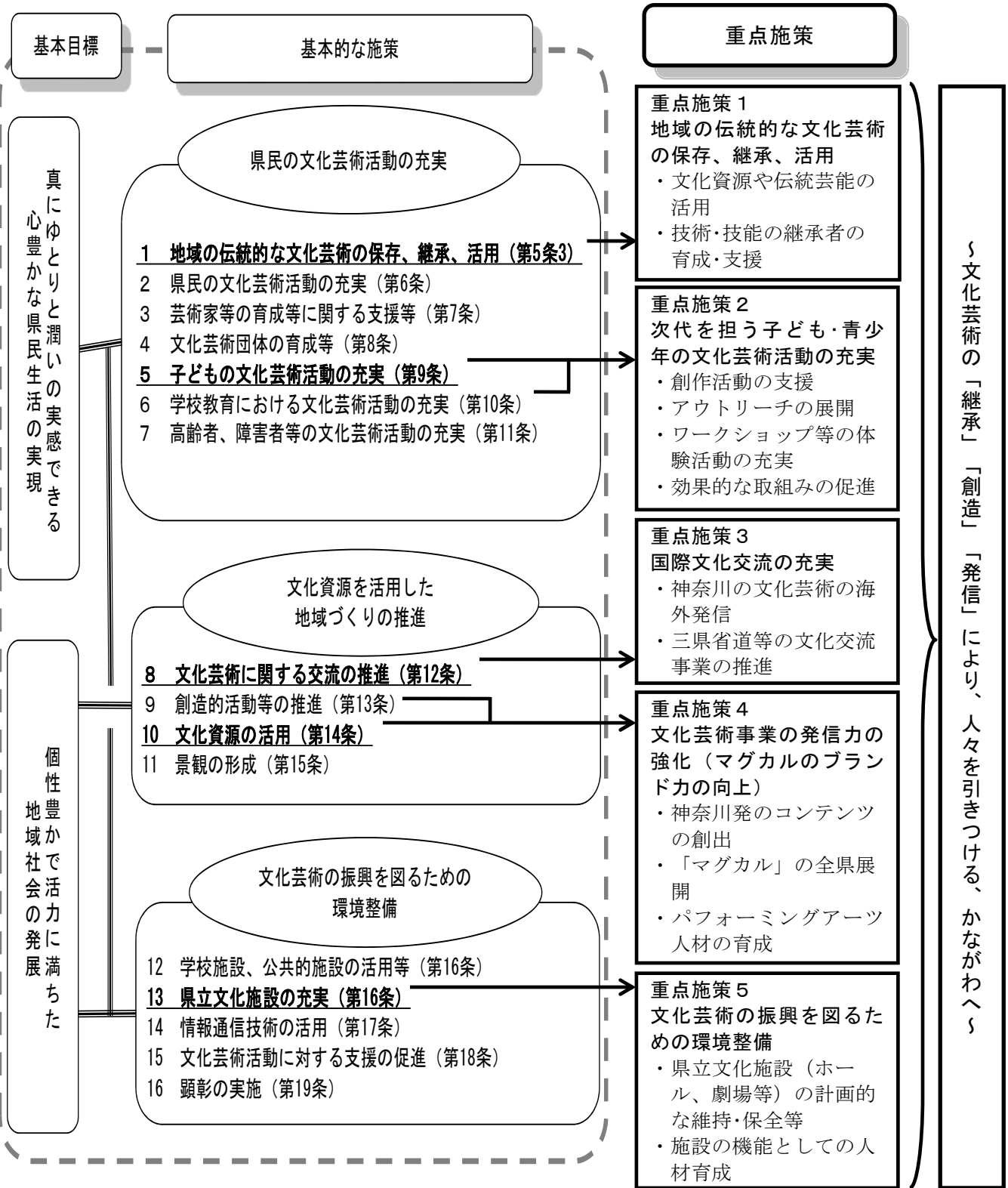
文化芸術の力で人を引きつけ、地域の賑わいを創出するため、神奈川オリジナルのコンテンツの制作や、文化芸術団体との連携によるワークショップ等を行った。

さらに、「マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー」を設置し舞台芸術人材の発掘と育成、また、県立青少年センターでは、「マグカル劇場」として、青少年に、舞台芸術の発表の場を提供した。

重点施策 5 文化芸術の振興を図るための環境整備

利用者に施設をより安全に利用していただくため、改修工事等を適切に行うなど、必要な整備を行った。

<施策体系図>



II 重点施策の実施状況

重点施策 1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

計画では、県内地域の自然、歴史、風土によりはぐくまれてきた伝統芸能などの伝統的な文化芸術について、伝統芸能の担い手だけでなく、県民が伝統芸能の存在意義に対する認識を深め、守り、継承していくために伝統芸能の鑑賞、発表機会を提供していくこと、将来の文化芸術の向上・発展の基礎ともなる伝統的な文化芸術を支える技術・技能の継承者に対する支援の充実を図ることとともに、地域のコミュニティの活性化、地域の賑わいづくりに有形・無形の文化資源を活用していくことが必要としている。

これらを踏まえ、県民をはじめ多くの人たちが、県内各地の伝統芸能を知る機会をもち、その価値を知って大切に継承していけるような取組みを行うため、次のような施策を実施している。

1 伝統芸能の普及啓発、鑑賞・発表機会の提供

(1) 施策の内容

地域の伝統芸能については、その価値が広く知られておらず、少子高齢化等の影響もあり、地域において後継者がいなくなるなどして失われるおそれがある。

そこで、伝統芸能についての理解、認識を深めるとともに、後継者の育成につながるよう、市町村と連携しながら、小・中学生向けのワークショップ、歌舞伎教室等の伝統芸能の体験・鑑賞機会の提供や、民俗芸能祭の開催、文化芸術活動団体への助成等を通じた発表機会の確保などに取り組んでいる。

さらに、これまで伝統芸能に馴染みが薄い方々にも関心を持っていただけるよう、地域の伝統芸能をクラシック音楽や現代ダンスなどと組み合わせ、新たな芸術文化として再発信する本県独自の取組みを積極的に推進している。

(2) 施策の効果

公演やワークショップといった機会を通じて、日本古来の伝統芸能や地域で受け継がれている貴重な民俗芸能を紹介することで、県民の理解、認識を深めることができた。

また、小・中学生向けのワークショップ、アウトリーチでは、事業をきっかけに、終了後も継続して民俗芸能に取り組む児童・生徒もおり、後継者育成という効果も得られている。（日本舞踊ワークショップでは参加者の1割以上が、継続して主催団体が実施している日本舞踊講座を受講している。）

伝統芸能を再発信する新たな取組みでは、地域の文化遺産の魅力を紹介するとともに、地域の民俗芸能の普及・啓発にも繋がった。

(3) 課題・今後の方向性

「(2) 施策の効果」でみたように、現在の取組みは一定の効果を得ているものと考え、より多くの県民等に伝統芸能の普及啓発、鑑賞・発表機会の提供ができるよう、今後は、県内市町村との連携をいっそう深めながら、各事業の参加者や対象地域を広げていくとともに、地域に根付かせる取組みを検討していく。

ワークショップについては、参加者への十分な指導を行うため、少人数での開催とするなど、担い手の育成・支援に向け、より効果的な手法で、取組みを継続していく。

伝統芸能を再発信する取組みについては、神奈川県が実施する2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムの企画の1つとしても実施予定となっており、今後とも継続して実施する必要がある。

(4) 取組み状況

取組みの 名称	取組みの内容・工夫点	実績
(1) 文化資源や伝統芸能を活用した文化芸術の発信	<p>【内容】 「カナガワ リ・古典プロジェクト 2015 大山」については「大山詣り」に代表される大山という地域が持つ歴史と文化を代表する古典芸能作品として、歌舞伎舞踊清元「山帰り」を上演するとともに、関連する県内各地の民俗芸能等を、本県出身の新進演出家による構成・演出で「大山まうで 舞をどり」として紹介した。 その他、関連事業として、無形民俗文化財マップの作成、シンポジウムの開催などを行った。</p> <p>【工夫点】 新進の演出家を演出で起用し、文化遺産の「見せ方」の工夫を行うことで、普段伝統芸能に馴染みのない方々に対しても、伝統文化の新しい魅力を発信した。 横浜中心部や大山という県内屈指の観光地で実施することによって、地域の民俗芸能の普及啓発につなげた。</p>	<p>「県庁民俗芸能スクエア～かながわを彩る獅子舞～」：5月31日 ・来場者数：900人</p> <p>「カナガワ リ・古典プロジェクト 2015 大山」：11月7日 ・来場者数：674人</p> <p>伝統芸能の継承や地域活性化の取り組みを考えるシンポジウム「伝統芸能の未来を考えるー地域・ひと・劇場ー」：3月18日 ・参加者数：95人</p> <p>無形民俗文化財マップ ・50,000部作成、配付</p>
(2) 伝統芸能を支える技術・技能の継承者の育成・支援	<p>【内容】 ①かながわ伝統芸能ワークショップ「相模人形芝居学校交流ワークショップ」 高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。 ②かながわ伝統芸能ワークショップ「日本舞踊に学ぶ’和’の作法」 小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。</p> <p>【工夫点】 ②において、兄弟割引を行い応募者数を増やす努力を行った。</p>	<p>①相模人形芝居ワークショップ：5月28日、7月14日、12月19日、12月21日 ・参加者数：964人（4日間合計）</p> <p>②日本舞踊ワークショップ 茅ヶ崎、横須賀、相模原、横浜の4会場 ・参加者数：101人（4会場合計）</p> <p>※アンケートの結果から、9割以上の参加者から肯定的な意見を得た。</p>
(3) 県立文化施設等での伝統芸能にかかわる公演の実施、発表機会の確保	<p>【内容】 伝統芸能を多くの県民に紹介し、日本の伝統文化への理解の促進、継承、発展の気運の醸成を図るため、歌舞伎鑑賞教室等7公演を開催した。</p> <p>【工夫点】 事業内容に応じて、公演団体等の自発的な実施能力を活用する共催と、公演実施のノウハウを有する青少年センターへの再配当事業方式を使い分け、効果効率的な事業の実施に努めた。</p>	<p>・来場者数：7,289名（7公演計） （内訳） 歌舞伎鑑賞教室：7月26、27日 ・来場者数：2,789人</p> <p>人形浄瑠璃文楽：10月11日 ・来場者数：1,079人</p> <p>かながわの地芝居フェスティバル：3月6日 ・来場者数：610人</p>

取組みの 名称	取 組 みの 内 容 ・ 工 夫 点	実 績
(4) 能・狂言 等鑑賞教室 の開催	<p>【内容】</p> <p>①「能・狂言鑑賞体験教室」(アウトリーチ)学校等で鑑賞体験教室を開催。能・狂言の鑑賞や能の歴史の解説、和楽器の体験等を行った。</p> <p>②「能楽ワークショップ」(公募型)小田原市民会館、県立青少年センターでワークショップを開催。謡曲・楽器の体験や能の鑑賞を行った。</p> <p>【工夫点】</p> <p>②について、小・中学生に加えて、保護者も含め、家族で伝統芸能を共有できるイベント運営に努めた。</p>	<p>①学校等での鑑賞教室: 5月14日、7月6日、10月6日、1月13日 参加者数: 2,347人(4日間合計)</p> <p>②能楽ワークショップ: 2月6日、2月11日 ・参加者数: 47人(2会場合計)</p> <p>※ワークショップにて、小田原会場、横浜会場共に、回答したすべての参加者が「満足」、「やや満足」と回答した。</p>
(5) 文化芸術団体への 支援や連携 による発表 機会の確保	<p>【内容】</p> <p>県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して、公募により補助金・賛助金を交付した。</p> <p>【工夫点】</p> <p>平成27年度からは、過去5年間に採択実績がない新規事業を優先して採択すると規定した「新規枠」を創設し、門戸を広げて募集を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・要望団体数: 47件 ・助成団体数: 26件 ・助成金交付額: 7,000千円
(6) 子ども を対象とし た民俗芸能 フェスティ バルの開催	<p>【内容】</p> <p>子どもたちを中心に民俗芸能の保存・継承に取り組む団体に発表の場を提供し、伝統芸能へ関心を持つ若者の育成を支援していくため、「かながわこども民俗芸能フェスティバル～れとろびーと2016～」を実施した。</p> <p>【工夫点】</p> <p>公演実施のノウハウを有する青少年センターへの再配当事業方式を使い、効果効率的な事業の実施に努めた。</p>	<p>「かながわこども民俗芸能フェスティバル～れとろびーと2016～」 : 1月10日 ・入場者数: 419人</p>

重点施策2 次代を担う子ども・青少年の文化芸術活動の充実

計画では、子どもたちの抱える問題の多様な背景の一つに、感性、共感する心、他者をいたわる心、想像力の欠如等といった要因が見出されることを示し、今後、学校との連携を進め、子ども・青少年の豊かな心や感性、創造性、コミュニケーション能力などをはぐくむために、次代の文化芸術の担い手の育成も考慮しながら、子ども・青少年を対象とした優れた文化芸術の鑑賞機会や体験機会の充実を図ることが必要であり、その際には、地域的な差異を補完する視点が必要としている。

これらを踏まえ、神奈川のすべての子ども・青少年が、豊かな心や感性、創造性、コミュニケーション能力をはぐくむことができるような取組みを行うため、次のような施策を実施している。

1 文化芸術の鑑賞機会の提供

(1) 施策の内容

子ども・青少年の豊かな心や感性、創造性、コミュニケーション能力などをはぐくむために、次代の文化芸術の担い手の育成も考慮しながら、子ども・青少年を対象とした優れた文化芸術の鑑賞機会の充実を図ることが必要である。

これらを実現するために、県立文化施設での子どもたちを対象とした公演・展覧会の開催のほか、音楽鑑賞機会の少ない子どもたちへのアウトリーチによる鑑賞普及事業、文化芸術団体との連携による子どもたちを対象とした音楽体験事業等を実施してきた。

例えば、県立文化施設での子どもたちを対象とした公演・展覧会として、県民ホール神奈川芸術劇場の「KAATキッズプログラム」や県立音楽堂の「マエストロ聖響の夏休みオーケストラ！」による子ども向けの演劇、音楽プログラム、神奈川近代文学館における児童文学をテーマにした展覧会、近代美術館や歴史博物館等における子ども・青少年向けの講座やワークショップ等を開催した。

また、小中学校等との連携によるアウトリーチ事業や、県内のプロオーケストラとの連携による公演や音楽鑑賞教室なども積極的に開催した。

(2) 施策の効果

県立文化施設での公演・展覧会等や、アウトリーチ事業等による音楽鑑賞機会の提供に対して、子どもたちなど多くの参加者から、肯定的な意見を得ている。

また、県立文化施設での子ども向け公演の開催により、普段は訪れる機会が少なくと思われる県立文化施設に子どもたちが足を運ぶことにより、子どもたちが文化芸術に触れ、関心を持つ機会を提供することができた。

さらに、ワークショップ等を実施することで、子どもたちの豊かな想像力や思考力を養い、ひいては将来の芸術家や観客層の形成、優れた文化の創造につなげることに寄与した。

(3) 課題・今後の方向性

「(2) 施策の効果」でみたように、現在の取組みは、一定の効果を得ているものと考えますが、こうした公演・展覧会について、より多くの子どもたちに参加していただくため、毎年、子どもたちが参加しやすい夏休み期間を中心に開催するよう調整するとともに、学校等と連携して、より効果的な広報を行う必要がある。

また、アウトリーチ事業等の開催地域が一部に限られており、今後より多くの地域で実施するため、市町村や学校との更なる連携・協力を図るとともに、その際には、地域のニーズや関係者との役割等に十分留意する必要がある。

(4) 取組み状況

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(1) 学校等と連携したアウトリーチの展開	<p>【内容】 「子ども・青少年への音楽体験の提供」をめざして「子どものためのアウトリーチ事業」を実施した。 楽器に触れられるワークショップ等を行い、子どもたちが音楽に触れる機会を提供した。</p> <p>【工夫点】 施設に足を運ぶことが困難な子どもたちのために、県内養護学校でのアウトリーチを実施するとともに、横浜市内の小中学校に対しては、横浜市芸術文化プラットフォーム事業を活用して広報等を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：352人 (内訳) 横浜市立日吉南小学校：10月20日 ・参加者数：127人 横浜市立永田台小学校：11月30日、12月1日、12月3日 ・参加者数：93人 岩戸養護学校：1月14日 ・参加者数：132人
(2) 県立文化施設での子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施	<p>■神奈川芸術劇場</p> <p>【内容】 「KAAT キッズプログラム」 子ども向けの演劇、ミュージカルなどを上演した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンフィ劇団「秘密のショートケーキ」 ・ブロードウェイミュージカル「フロッグとトード」 ・親子のためのファミリー・ミュージカル「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」 ・おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」 <p>【工夫点】 親子チケットや子ども料金の設定など、手ごろな価格で観覧しやすいよう配慮した。</p>	<p>コンフィ劇団「秘密のショートケーキ」：8/13～8/17・12回 ・来場者数：420人</p> <p>「フロッグとトード」：12/22～12/25・4回 ・来場者数：3,740人</p> <p>「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」：8/8～8/16 ・来場者数：2,026人</p> <p>「わかったさんのクッキー」：7/23～8/2・15回 ・来場者数：2,200人</p>
(2) 県立文化施設での子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施	<p>■県立音楽堂</p> <p>【内容】 子ども・青少年への音楽体験の提供をめざした公演として、「マエストロ聖響の夏休みオーケストラ！」を実施した。 関連企画アウトリーチも含めて、5月12日から8月15日にかけて開催した。 アウトリーチ公演からワークショップまで様々な形で音楽に触れる機会を提供した。</p> <p>【工夫点】 舞台のスタッフ業務を体験できるジュニアスタッフ養成講座やバックステージツアー、更に今年度からは舞台体験の海外から英国人音楽家を招聘し、プロの演奏家と一緒に曲を作るワークショップ等、様々な形で音楽に触れられるよう工夫した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：1,500人 (内訳) 三浦市立三崎小学校(アウトリーチ)：5月12日 ・参加者数：264人 三浦市立三崎中学校吹奏楽部訪問：5月12日 ・参加者数：35人 ジュニアスタッフ養成講座：8月12～15日 ・参加者数：20人 バックステージツアー&ミニコンサート：8月12日 ・参加者数：207人 英国人音楽家によるワークショップ「みんなでいっしょに曲を作ろう」 ・参加者数：97人 はじめてでも楽しめる「公開リハーサル」：8月13日 ・参加者数：127人 指揮者・金聖響さんとの対話の広場：8月14日 ・参加者数：48人 「マエストロ聖響の夏休みオーケストラ！」：8月15日 ・公開ゲネプロ観覧者数：59人 ・指揮者体験参加者数：2人 ・本公演観覧者数：641人

取組みの 名称	取 組 み の 内 容 ・ 工 夫 点	実 績
(2) 県立文化施設での子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施	<p>■美術館・博物館</p> <p>【内容】</p> <p><展覧会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代美術館 葉山館・鎌倉館・鎌倉別館の3館で10展覧会開催 ・金沢文庫 特別展・企画展計5回開催 ・歴史博物館 常設展示、特別展示・特別陳列計7回開催 ・生命の星・地球博物館 常設展、特別展・企画展計2回開催 <p><教育普及事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒向け講座等の開催 <p>【工夫点】</p> <p>優れた芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、教育現場とのネットワークづくりを重視した連携を図りながら、ワークショップ等、特に児童、生徒対象の鑑賞教育支援事業を拡充した。</p>	<p><各館入館者数></p> <ul style="list-style-type: none"> ①近代美術館：168,012人 ②金沢文庫：43,049人 ③歴史博物館：178,873人 ④生命の星・地球博物館：295,644人 <p><教育普及事業参加者数等></p> <p>(近代美術館)</p> <p>学校との連携授業 (16回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：29人 <p>ワークショップ (14回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数・1,254人 <p>小・中・高校生対象に夏休み期間中、展覧会関連ノベルティ・グッズを配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付数：2,652セット (生命の星・地球博物館) <p>子ども自然科学広場 (述べ50日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：7,059人 <p>夏休み子ども向け講座 (全6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：153人 (歴史博物館) <p>青少年向け講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：6,087人 <p>学校の見学学習や体験学習への支援</p> <p>学校連携実績 (389校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：13,649人
(3) 文化芸術団体との連携による子どもたちを対象とした音楽体験事業等の実施	<p>【内容】</p> <p>(公財) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団が実施する、「子どもたちの音楽芸術体験事業」(平成28年1月18日～19日及び2月22日～24日開催)や特別支援学校での演奏会、音楽鑑賞教室等を支援し、オーケストラが奏でる生の音楽に、子どもたちが身近に触れる機会を提供した。</p> <p>【工夫点】</p> <p>「子どもたちの音楽芸術体験事業」では、プロのオーケストラとの共演や事前の実演指導を取り入れた参加型の演奏会を開催し、子どもたちが能動的に参加する仕組みを提供した。</p>	<p><参加者数：57,738人(62回)></p> <p>(内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの音楽芸術体験事業(主催) 6回：2,748人 ・ボランティア公演 特別支援学校等15校(主催)：2,000人 ・音楽鑑賞教室(依頼演奏) 41回 : 52,990人
(4) 近代文学館での児童文学を題材とした展覧会等の実施	<p>【内容】</p> <p>毎年子どもの来館が増加すると想定される夏の期間に児童文学展を実施した。</p> <p>【工夫点】</p> <p>子ども向けの広報として、教育委員会の協力を得て、横浜市内の全公立小中学校の児童にチラシを配布した。</p>	<p>「まるごと 佐野洋子展—『100万回生きたねこ』から『シズコさん』まで—」企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入場者数：15,197人(1日平均267人) <p>(うち小・中学生以下の入場者数：1,760人)</p>

2 文化芸術活動の体験機会の充実

(1) 施策の内容

子ども・青少年の豊かな心や感性をはぐくむため、子ども・青少年が自ら行う文化芸術活動への支援や文化芸術の体験企画の実施など、文化芸術の体験機会の充実に図ることは重要である。

これらを実現するため、子ども・青少年を対象とした文化芸術の発表の場の提供や、県立文化施設での子ども向けイベントの開催、青少年施設における体験事業などを実施してきた。

例えば、中・高校生を対象とした美術展の開催や神奈川近代文学館における児童文学展の開催に併せた子ども向け行事や、宿泊型の体験活動施設である藤野芸術の家において事業を実施している。

(2) 施策の効果

優れた文化芸術の鑑賞・体験機会、自らの作品創作及び発表の機会を提供することで、子どもたちの芸術への興味と理解を深めることができ、子どもたちや保護者等からも好評を得ている。(アンケートで、参加者の9割から好評を得ている事業もある。)

また、こうした事業をきっかけに、自ら積極的に創作を始めたり、継続して民俗芸能に参加する子どももみられ、子どもが担う文化芸術活動の活性化につながっているものと考えられる。

(3) 課題・今後の方向性

「(2) 施策の効果」でみたように、現在の取組みは、一定の効果を得ているものと考えるが、より多くの子ども・青少年に参加していただくため、今後は、学校や県内市町村等との連携をいっそう深め、参加者や対象地域を広げていく必要がある。

また、既存事業には、恒例行事として定着しているものもあるが、これにとどまらず、子どもたちの興味や関心をより強く意識した事業を行うとともに、広報の充実に図る必要がある。

(4) 取組み状況

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(5) 子どもを対象とした公募美術展開催等による創作活動の支援	<p>【内容】</p> <p>青少年の作品発表の機会の提供、創作活動の支援及び県美展の活性化を図るため、前回に引き続き、公募美術展「神奈川県美術展特別企画展(中・高校生対象)」を開催した。</p> <p>学校への働きかけを積極的に行い、応募者数の増加に繋がった。</p> <p>【工夫点】</p> <p>学校への働きかけを積極的に行い、応募者数の増加に繋がった。</p>	<p>・特別企画展実績：9月2日～27日(うち2日休・開催24日間)</p> <p>応募点数：326点</p> <p>応募者数：224人</p> <p>入選点数：105点</p> <p>入賞点数：15点</p> <p>入場者数：5,047人</p>
(6) 文化芸術団体との連携・協働による子どもたちの文化芸術活動の推進	※重点施策1の取組み「(4)能・狂言等鑑賞教室の開催」と同様のため、記載省略。	

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(7) 青少年センター、藤野芸術の家での文化芸術を体験する機会の提供	<p>■青少年センター</p> <p>【内容】 子ども、青少年向けに夏休の時期に、優れた演目を選定し、実施した。 ①青少年芸術劇場・・・青少年芸術劇場300回記念として、第1回公演を行った劇団仲間の演目を実施した。 ②青少年ダンス鑑賞会・・・青少年ダンス講習会の一部として、青少年向けの現代舞踊協会によるモダン、ジャズのダンス公演を実施した。</p> <p>【工夫点】 青少年芸術劇場では300回を記念して、過去のチラシやパンフの展示など、事業を振り返るコーナーを設けた。</p>	<p>①青少年芸術劇場：7月19日 ・入場者数：293人</p> <p>②青少年ダンス鑑賞会：8月11日 ・入場者数：319人</p> <p>※ダンス鑑賞会は、講習会の一部として、受講する青少年を中心に鑑賞しているが、アンケートでは、「とてもよかった」、「よかった」をあわせて、97%となっている。</p>
	<p>■藤野芸術の家</p> <p>【内容】</p> <p>①体験事業 初心者をはじめあらゆる人々が、気軽に陶芸・木工・ガラス工芸・音楽等の芸術体験や自然体験に親しむための常設事業及び季節にあった期間限定の体験事業を実施した。</p> <p>②学習事業 専門家を講師に迎え、音楽、美術、工芸等の教室を開催し、技術の修得や知識向上を図るための事業を実施した。</p> <p>③創造事業 専門的な芸術活動、創造活動のための講習会や優れた芸術家の作品を鑑賞するための事業を実施した。</p> <p>④活動支援事業 青少年をはじめあらゆる人々が、人とのふれあいを通して、芸術や自然に親しむ機会をつくり、様々な体験活動を支援するための事業を実施した。</p> <p>【工夫】 陶芸・木工などの体験事業は、季節にあった体験メニューを企画・実施し、新たな体験メニューを開発・提供したことで、多くの利用者に好評であった。また、外部ホームページ、タウン誌、ラジオ、新聞、県のたより等を利用した積極的な広報活動や県西（湘南）地域への広報活動に力を入れ、集客力の向上に取り組んだ。</p>	<p><参加者数></p> <p>①体験事業 50,360人 ②学習事業 353人 ③創造事業 235人 ④活動支援事業 9,195人</p>
(8) 伝統芸能ワークショップの実施	<p>※重点施策1の取組み「(2)伝統芸能を支える技術・技能の継承者の育成・支援」と同様のため、記載省略。</p>	

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(9) 県立近代文学館での子どもたちが読書に親しむための事業の実施	【内容】 夏休みと春休みの子どもの長期休み期間に合わせて「かなぶんキッズクラブ」として紙芝居、映画会、絵本の読み聞かせなどを実施した。 【工夫点】 特に夏休み期間のイベントは、企画展のテーマに合わせた内容で開催した。	<夏休み期間参加者数：618人> （紙芝居、映画会（2日）、絵本の読み聞かせ） <春休み期間参加者数：130人> （紙芝居、映画会） 本活動は、長期休みの恒例行事として定着しつつある。
(10) 子どもを対象とした民俗芸能フェスティバルの開催	※重点施策1の取組み「(6)子どもを対象とした民俗芸能フェスティバルの開催」と同様のため、記載省略。	

3 学校教育における文化芸術に関する体験学習等の充実

(1) 施策の内容

子どもたちの豊かな心や感性、創造性、コミュニケーション能力などをはぐくむとともに、次代の文化芸術の担い手を育成するためには、子ども・青少年を対象とした優れた文化芸術の鑑賞機会や体験機会の充実を図ることは重要である。

そこで、小中学校などの学校教育における文化芸術に関する体験学習などの充実を図るとともに、芸術家等や文化芸術団体が学校教育の中で行う文化芸術活動に必要な協力や支援を実施するため、音楽体験事業や能・狂言の鑑賞教室などを実施している。

また、県立高校等において、伝統芸能の体験事業等を行い、伝統・文化を正しく伝えられるような人材育成に資する取組みや、学校に芸術家を招いたワークショップ型の授業を展開している。

(2) 施策の効果

優れた文化芸術の体験機会を提供することで、子どもたちの芸術への興味と理解を深めることができ、参加児童・生徒や保護者からも好評を得ている。事業をきっかけに、終了後も継続して民俗芸能に取り組む児童・生徒もおり、後継者育成という効果も得られている。

また、県立高校等における伝統芸能の体験事業等では、各校で特色のある取組みを行うとともに、学校に芸術家を派遣する事業では、演劇を中心とした継続的なワークショップ型の授業を展開するなど、多くの生徒が実践的な体験を得ることができた。

(3) 課題・今後の方向性

「(2) 施策の効果」でみたように、現在の取組みは一定の効果を得ているものと考えているが、より多くの子どもたちが体験学習等を経験できるよう、各事業の参加者や対象地域を広げていく。

特に、学校においては、教育現場とのネットワークづくりを重視した連携を図りながら、ワークショップ等、児童や生徒対象の鑑賞教育支援事業を拡充していく。

(4) 取組み状況

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(11)文化芸術団体との連携による音楽体験事業等の実施	※重点施策2の取組み「(3)文化芸術団体との連携による子どもたちを対象とした音楽体験事業等の実施」と同様のため、記載省略。	
(12)能・狂言等鑑賞教室の開催	※重点施策1の取組み「(4)能・狂言等鑑賞教室の開催」と同様のため、記載省略。	
(13)文化芸術による子供の育成事業(文化庁事業)の県内での展開	<p>【内容】</p> <p>①巡回公演事業 文化庁が選定した舞台芸術団体が全国10ブロックで巡回公演を実施。学校や文化施設で公演を行った。</p> <p>②派遣事業 芸術家個人や小グループを学校に派遣し、体育館等の学校施設や文化施設等で児童・生徒を対象に実技披露・指導を行う。</p> <p>③子供 夢・アート・アカデミー 派遣事業の一環であり、美術・音楽等の各分野における最高峰の芸術家である「日本芸術院会員」が児童・生徒に実技披露・指導を行った。</p> <p>【工夫点】 一方的に公演を行うだけでなく、児童・生徒と共演したり、実技指導をするなど、児童・生徒が芸術体験できるよう工夫した。</p>	<p>①巡回公演事業 27校実施</p> <p>②派遣事業 32校 34件実施</p> <p>③子供 夢・アート・アカデミー 2校実施</p>
(14)県立高校における文化芸術にかかわる科目等の充実及び文化芸術の発展に寄与する人材の育成	<p>【内容】 多彩な教育活動の展開や個に応じた学習指導の充実など、各校の特色ある高校づくりを推進し、県立高校全体の教育力向上、信頼と期待に応える県立高校づくりを進めるため、平成22年度から「県立高校教育力向上推進事業」を展開してきた。 こうした事業の成果を生かし、県立高校の教育力をさらに向上させることを目的として、平成25年度から「県立高校教育力向上推進事業Ver. II」として新たな取組みを行った。 この県立高校教育力向上推進事業Ver. IIにおいて、県立高校7校を「伝統・文化教育教育実践校」に指定した。</p> <p>【工夫点】 伝統・文化を正しく伝えられる人材の育成に資する取組みを行った。</p>	<p>○座間総合高校 相模人形芝居ワークショップ(1年次生240名対象)、身近な伝統文化(着付け、風呂敷包み等)の体験学習(1年次生240名対象)等</p> <p>○舞岡高校 和装体験、茶道体験(ともに1年生全員対象)等</p>
(15)伝統音楽に関する指導者ワークショップの実施	(平成27年度は該当事業実施なし)	

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(16) 芸術家等や文化芸術団体との連携した教育の実施	<p>【内容】 文部科学省事業「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験（芸術家派遣）」に応募し、演劇（現代劇、ミュージカル等）やメディア芸術（メディアアート、映画等）を実施した。</p> <p>【工夫点】 芸術家を学校に招き、学校の教育課程に芸術表現体験を効果的に結び付けた計画的・継続的なワークショップ型の授業を展開した。</p>	<p>県立高校5校が採択され、事業実施。</p> <p>①横浜桜陽高校 （全6回実施、演劇体験Ⅰ選択者32名対象）</p> <p>②麻生総合高校 （全8回実施、演劇基礎選択者32名対象）</p> <p>③平塚商業高校定時制 （全3回実施、全校生徒206名対象）</p> <p>④藤沢清流高校 （全4回実施、映像表現実践・映像表現選択者19名対象）</p> <p>⑤寒川高校 （全5回実施、色彩・映像演習C選択者4名対象）</p>
(17) 学校と文化施設との連携の推進	<p>※重点施策2の取組み「(1)学校等と連携したアウトリーチの展開」と同様のため、記載省略。</p>	

重点施策3 国際文化交流の充実

計画では、それぞれの地域、国などの地理的・歴史的な背景をもとに形成された文化芸術の多様性について理解を深めることは、地域間、国際間の真の相互理解を進める上で不可欠な要素と位置づけ、①国内外の舞台芸術関係者のネットワーク構築のための事業、海外の劇場との連携等を行い、国際色豊かな文化事業を展開すること、②相互理解を深めるための国際交流事業の中で文化交流を推進すること、その手法の一つとして、従来からの県の取組みである三県省道（神奈川県、中国・遼寧省、韓国・京畿道）のネットワークを生かして文化交流を行うことが必要としている。

これらを踏まえて、これまでも世界に開かれた窓として、世界と日本を結ぶ重要な役割を担い、様々な分野における交流を通じて、豊かな国際性を育ててきた神奈川の特徴を生かした取組みを行うため、次のような施策を実施している。

1 国際文化交流の推進

(1) 施策の内容

それぞれの地域・国などの地理的・歴史的な背景をもとに形成された文化芸術の多様性について理解を深めることにより、地域間、国際間の相互理解を進めるため、国内外の舞台芸術関係者とのネットワーク構築のための事業や海外の劇場との連携等による文化事業の展開、国際交流事業の中での文化交流の推進等を進める。

主な取組みとして、①神奈川発の舞台芸術作品を創造発信する「創造型劇場」である神奈川芸術劇場において、国際共同作品等の上演や海外の舞台芸術関係者によるミーティングの実施、②県が推進してきた三県省道（中国・遼寧省、韓国・京畿道、本県）のネットワークを生かした文化交流がある。

(2) 施策の効果

神奈川芸術劇場が制作に強く関わった作品の凱旋公演等上演し、国際的な発信の一助を担うことができた。

併せて、神奈川芸術劇場が複数の文化芸術関連団体と協働して推進するTPAM（国際舞台芸術ミーティングin横浜）では、各国の舞台芸術のプロが一同に会し、公演をはじめとする多彩なプログラム、情報交換やネットワーク構築の場の提供など、様々な取組みを行った。

また、三県省道スポーツ交流事業を通じた、次世代を担う青少年同士の交流は、相互の文化を理解する上で非常に有効である。

(3) 課題・今後の方向性

2019年のラグビーワールドカップ日本大会や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、日本を訪れる方々に、神奈川らしい、神奈川オリジナルの魅力的な舞台芸術作品の制作や上演を充実させる必要がある。

また、TPAMについては、今後は一般の方々にも親しんでいただけるような作品の創作や広報を工夫して行っていく必要がある。

こうした文化芸術を通じた海外との相互交流の取組みを積み重ねていくことで、将来的には、神奈川発の文化芸術の海外への発信などにつなげていく必要がある。

(4) 取組み状況

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(1) 神奈川の文化芸術の海外発信	<p>【内容】 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016 (TPAM in YOKOHAMA2016) を開催し、舞台芸術に係るプロフェッショナルが国や地域を超えて集まり、公演・ディスカッション・ワークショップ等の多彩なプログラムを通じて、情報交換・相互学習・ネットワーク構築の場を提供した。</p> <p>【工夫点】 神奈川芸術劇場が開館して以来、開催に深く関与しており、神奈川芸術劇場での舞台芸術作品の公演などを積極的に行った。</p>	<p>国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016 (TPAM in YOKOHAMA2016) 実行委員会方式 会期：2月6日～14日 会場：神奈川芸術劇場ほか周辺施設 参加国・地域数：40ヶ国 292名 ※神奈川芸術劇場での公演数：6演目・16公演 ・延べ参加人数：約19,000人</p>
(2) 三県省道等との文化交流事業の推進	<p>【内容】 本県にて8月24日から28日にかけて、スポーツ交流事業を実施した。 なお、三県省道友好交流会議については、隔年開催のため該当なし。</p> <p>【工夫点】 親善試合ほか、学校訪問において、琴、着物体験、折り紙・ちぎり絵などの日本文化体験を通じた生徒間の交流を行うなど、青少年の交流を意識したプログラムを実施した。</p>	<p>スポーツ交流事業：8月24日～28日 ・参加者数：151名 (内訳) 神奈川県 46名 中国・遼寧省 51名 韓国・京畿道 54名</p>

重点施策4 文化芸術事業の発信力の強化（マグカルのブランド力の向上）

計画では、文化資源を活用した地域の活性化を図るため、文化資源に関する情報の収集や発信を行う必要があると考え、神奈川の文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域の賑わいを創出する「マグカル」＝マグネット・カルチャーの取組みを平成24年度から開始している。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック等も見据え、今後も神奈川県内の文化芸術の魅力や創造性を発信し、多くの人を引きつけていくことは重要であり、この取組みを継続するとともに賑わいづくりの核となるコンテンツを展開し、「マグカル」のブランド力の向上を図っていく必要があるとしている。

これらを踏まえ、「マグカル」の認知度を高め、ブランド力を向上させる取組みを行うため、次のような施策を実施している。

1 創造的活動の推進と発信

(1) 施策の内容

県立文化施設における神奈川発のコンテンツとして、特に「創造型劇場」である神奈川芸術劇場において、神奈川オリジナルのコンテンツを制作し、文化芸術の魅力で人々を引きつけることで、地域の賑わいを創出していく。

(2) 施策の効果

神奈川芸術劇場における新作・新演出の舞台芸術作品の創造活動を通じて、劇場としての存在感を広くアピールすることができた。また神奈川でしか見られない公演を開催し、集客に寄与した。（延べ68公演、観覧者数：35,949人）

(3) 課題・今後の方向性

新作・新演出の舞台芸術作品の公演については、演出家や出演者の知名度はもとより、劇場の広報宣伝力、さらには劇場そのものの知名度等で集客の度合いが左右されると考えることから、神奈川芸術劇場においてもこうした点に留意しながら、引き続き神奈川発のコンテンツを生み出す劇場としての役割を果たしていく必要がある。

(4) 取組み状況

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(1) 県立文化施設における新たな舞台芸術作品等の創造・発信	<p>【内容】</p> <p>神奈川芸術劇場における新たな舞台芸術作品の創造や新作公演の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台「アドルフに告ぐ」（原作：手塚治虫） ・「ペール・ギュント」（白井晃演出） ・ミュージカル「HEADS UP！」（ラサール） ・A New Musical「JAM TOWN」（錦織一清） ・地点「スポーツ劇」ほか <p>【工夫点】</p> <p>国内外の優れた制作者や地方公共劇場等の関係団体との共同制作公演に積極的に取組み、施設の特性を生かした舞台芸術の創造・発信を行った。</p>	<p>舞台「アドルフに告ぐ」：6/3～6/14</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数：8,345人（14回） ※県外公演の観覧者数：2,900人（5回） <p>「ペール・ギュント」：7/11～20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数：6,939人（11回） ※県外公演の観覧者数：1,950人（3回） <p>ミュージカル「HEADS UP！」：11/13～11/23</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数：10,217人（13回） ※県外公演の観覧者数：5,372人（7回） <p>A New Musical「JAM TOWN」：1/13～1/30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数：9,336人（20回） <p>地点「スポーツ劇」：3/11～3/21</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数：1,112人（10回）

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(2)文化芸術団体・芸術系大学等との連携による先駆的で発信性の高い文化芸術の創造	(厳しい財政状況を反映して、平成 27 年度の実績は無し、平成 28 年度は横浜国立大学と連携した野外公演を実施予定。)	
(3)新進芸術家等への支援の検討	<p>【内容】 「第 31 回かながわ音楽コンクール」を実施（共催）した。 8 月 26 日に入賞者を対象としたクリスタルコンサート、10 月 4 日に上位入賞者によるトップコンサートを実施した。</p> <p>【工夫点】 トップコンサートについては、県のたよりに掲載し、広報周知に取り組んだ。</p>	<p>入賞者を対象としたクリスタルコンサート：8 月 26 日 上位入賞者によるトップコンサート：10 月 4 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：994 人 ・鑑賞者数：延 4,200 人

2 文化芸術事業の発信力の強化（「マグカル」のブランド力の向上）

(1) 施策の内容

県民が身近で文化芸術に親しめる機会をひろげ、県内の歴史的建造物などの文化資源や伝統芸能をはじめ、さまざまな文化芸術の力で、地域のにぎわいをつくり出すマグネット・カルチャー（マグカル）の取り組みのうち、核となる舞台芸術人材育成においては、「マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー」を設置し、専門人材を発掘・育成している。

また、「マグカル劇場」では、県立青少年センターを発表の場として提供し、同じく新たな舞台芸術人材の発掘と育成を行い、マグカルブランド力の向上に資する人材の育成を図っている。

一方、歴史的建造物等、神奈川の文化資源を活用したマグカル事業の実施により、神奈川オリジナルな文化芸術による地域の賑わいを創出している。

(2) 施策の効果

神奈川発のオリジナルコンテンツの創出などマグカル事業の核となる舞台芸術を活性化させるため、専門人材を発掘・育成する「マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー」では、在籍生が多数メディアへの出演を果たしており、今後のマグカル事業を担う人材が蓄積されている。

また、マグカル劇場においても、マグカルシアター、マグカルフライデーなどで、県内の演劇人に発表の場を提供することで、舞台芸術人材の育成につながった。

同様に、短編演劇コンテストの全国大会「神奈川かもめ短編演劇祭」については、上演後に行われた審査員の講評では、出場団体や観客から作品に多様な見方、楽しみ方があることがわかったといった好評を得たほか、各地域からの出場団体同士の積極的な交流や日本の第一線で活躍する各審査員との交流が深まったことで、演劇界の活性化と若手演劇人が様々な問題や課題に気付くきっかけを与えることに寄与した。

歴史的建造物を活用したマグカル事業においては、普段文化芸術に関心のない層に対する訴求力が高まったことがあげられる。

(3) 課題・今後の方向性

「マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー」については、モチベーションの維持・継続のためにも、即戦力となるレベルの高い生徒を確保するため、年1回行なっている成果発表会のような発表の回数を半年に1回に増やすなど、レッスンの目標となる機会を作るとともに、魅力的なコンテンツの上演を行なうことで、その公演への参加を希望する質の高い生徒を集め、アカデミー受講者数を上げることで、神奈川発の魅力的な舞台芸術人材育成を推し進めることが必要である。

また、短編演劇コンテストの全国大会「神奈川かもめ短編演劇祭」等の事業については、演劇に親しみのない方にも劇場を訪れてもらいやすくなるような広報の展開をより充実することが課題である。

今後の方向性としては、出口をしっかりと提示した人材育成の在り方を検討していく必要がある。

(4) 取組み状況

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(1) 神奈川発のコンテンツの創造	<p>【内容】 本庁舎公開と連携したイベント開催や出前マグカル劇場を実施した。</p> <p>【工夫点】 文化施設以外の県庁舎等で文化事業を実施することにより、文化芸術に関心のない層にも訴求し、マグカル事業をアピールすることができた。</p>	<p>出前マグカル劇場 「神奈川県庁本庁舎大会議場短編演劇集 vol.2」 ： 4月18,19日 ・来場者数：742人 <出演団体> 横浜マリノロケット、もじゃもじゃ頭とへらへら眼鏡、theater045syndicate、集団asif</p> <p>「県庁民俗芸能スクエア vol.2～かながわを彩る獅子舞」(文化遺産課と連携) ： 5月31日 ・来場者数：900人 <出演団体> 横浜中華学校校友会国術団(横浜市)、寿獅子舞保存会(小田原市)、牛込獅子舞保存会(横浜市)、初山獅子舞保存会(川崎市)、大島諏訪明神獅子舞保存会(相模原市)、菅獅子舞保存会(川崎市)</p> <p>熊本マリ氏ピアノリサイタル ： 5月31日 ・来場者数：200人</p>
(2) 「マグカル」の全県展開	<p>※重点施策1の取組み「(1)文化資源や伝統芸能を活用した文化芸術の発信」と同様のため、記載省略</p>	

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(3)パフォーミングアーツ 人材の育成	<p>《マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー》</p> <p>【内容】 プロを目指す人材を対象に、歌、ダンス、演技のレッスンを1年間実施し、舞台芸術に関わる専門人材を育成した。</p> <p>【工夫点】 様々な有名講師を迎え、より専門的で質の高いレッスンを提供することで、短期間で即戦力となる人材を育成した。さらに、成果発表会など、日々の稽古の目標となる機会を設けることで、生徒のモチベーションを保つ工夫を行った。</p>	<p>平成27年度（2期生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募者数：新規応募15名、継続希望15人 ・オーディション合格者数：第1期からの継続者を含め25人 <p>質の高いレッスンを受講したアカデミー生は、TV、映画等、多数メディアの出演を果たした。</p>
	<p>《オープンクラス》マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー 新春特別講座</p> <p>【内容】 人材の育成・発掘の可能性を広げ、舞台芸術の魅力をお知らせするため、宝塚歌劇団演出家植田景子さんと宝塚歌劇団の現役生をお招きし、新春特別講座としてワークショップを開催した。</p> <p>さらに、より多くの方々にアピールするため、中井美穂さん司会のもと、知事と植田景子さん、宝塚元トップスター真琴つばささんが、ミュージカルや舞台、宝塚の魅力を語るトークショーも実施した。</p> <p>【工夫点】 ワークショップでは、実践的な演技指導が行われ、演技参加者は広く一般から公募したことで、人材の育成・発掘の可能性を広げた。また、トークショーでは、宝塚歌劇団が長い歴史を経て、今尚人々を魅了しつづける秘密を語りつつ、神奈川県が進める文化政策、マグネット・カルチャー「マグカル」の取組みや今後の展望について話合うことで、広く一般の方々にアピールした。</p>	<p>(1)公開ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演技参加者数：20人 ・観覧者数：161人 <p>(2)トークショー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数：180人 <p>NHKをはじめ、各報道機関が多数来場し、異例のコラボレーションを、TV、新聞等で全国に伝えたことで、神奈川の文化芸術の魅力を広く発信した。</p>

取組みの名称	取組みの内容・工夫点	実績
(3)パフォーミングアーツ人材の育成	<p>《マグカル劇場》</p> <p>【内容】 県民が身近で文化芸術に親しめる機会をひろげ、伝統芸能をはじめ、さまざまな文化芸術の力で、地域のにぎわいをつくり出すマグネット・カルチャー（マグカル）の取り組みのうち、「マグカル劇場」では、県立青少年センターを発表の場として提供し、新たな人材の発掘と育成を行うとともに、舞台芸術人材の育成を図った。</p> <p>ア マグカル芝居塾 公募した青少年により、創作したミュージカルを上演する。出演だけでなく舞台の裏方の仕事も学び、青少年の健全育成につなげるとともに、地域の再発見を目指す。 対象：高校生～29歳（公募）</p> <p>イ マグカル・シアター 若者が広く舞台芸術を発信する場として、リハーサルから上演まで使用できるよう1週間通して青少年センター多目的プラザを無料提供する。運営、準備は出演者が行い、若者が鑑賞しやすいように低廉な価格であれば有料公演も可とする。 対象：演劇部、演劇サークル等、青少年を構成員とするアマチュア劇団</p> <p>ウ マグカル・フライデー ダンス、音楽からパフォーマンス等、舞台芸術に関する公演や発表等を希望する若者に、毎週金曜日に青少年センター多目的プラザの施設・設備を無料提供する。 当日運営、準備は原則として出演者が行い、青少年が鑑賞しやすい低廉な価格であれば有料公演も可とする。 対象：高校生、大学生等の若者</p> <p>エ マグカル・ハイスクール演劇フェスタ 県高校演劇発表会にて最優秀賞等高い評価を得た作品を県民に紹介し、高校演劇に対する理解を深めてもらう。 対象： ①高校演劇発表会(11月14、15日)の最優秀校 県立神奈川総合高校、麻布大学付属高校 ②春の高校演劇フェスティバル(横浜地区・湘南地区)</p>	<p>ア マグカル芝居塾 日程： 平成27年4月、出演者公募 5月、オーディション 5月～8月、稽古 8月14日～16日 青少年センターホールで公演 (1,051名参加)</p> <p>イ マグカル・シアター 日程： 月1回～2回</p> <p>回数：14演目31団体 95 公演 5,619人</p> <p>ウ マグカル・フライデー 日程： 月1回程度の金曜日。 9：00～22：00の間。</p> <p>回数：12演目20団体 24 公演 1144人</p> <p>エ マグカル・ハイスクール演劇フェスタ 日程： ①平成27年12月20日 ②平成28年3月24日～30日 来場者数： ①341人 ②2,251人</p>

取組みの名称	取 組 み の 内 容 ・ 工 夫 点	実 績
	<p>【工夫点】 マグカル劇場の運営に当たり、舞台経験の少ない出演希望団体からの技術的・演出的な相談等に応えるほか、舞台づくりや公演の運営にあたってのアドバイスなど、出演に当たってのハードルを下げ、センター技術スタッフとの連絡調整をスムーズに進めるために、事務の一部を神奈川県演劇連盟に委託した。</p> <p>芝居塾では、塾生に経験を積ませるため、ホールでの本公演の前に、多目的プラザに塾生が簡単な舞台を作るとともに、公演のハイライト版を公開で上演した。</p>	
<p>(3)パフォーミングアーツ 人材の育成</p>	<p>《神奈川かもめ短編演劇祭》</p> <p>【内容】 短編演劇のコンテストの全国大会、「神奈川かもめ短編演劇祭」を、昨年度の「マグカル presents 劇王天下統一大会2015～ベイシティ・ロワイヤル！ in KAAT～」に引き続いて2回目を開催した。</p> <p>神奈川県をはじめ全国の地区大会を勝ち抜いた各地の劇団がKAAT神奈川芸術劇場で公演した。また、27年度は韓国の演劇人をゲストとして招き、演劇による日韓の交流を図った。</p> <p>【工夫点】 事業実施にあたっては、外部の民間企業等からの協賛を募り、協力を得ながら行った。</p>	<p>1月29日～1月31日 ・観覧者数：810人 （1公演平均200人）</p>

重点施策5 文化芸術の振興を図るための環境整備

計画では、本県では文化芸術の振興を図るため、昭和29年に県立音楽堂、昭和50年に県民ホールの整備を行ってきたが、建築から60年経過した県立音楽堂については、戦後復興期のシンボルともいわれる建築物であるため、今後の整備については、近隣の他の県立施設の状態を勘案しながら検討していくとともに、県民ホールについても、周辺地域の状況にも留意しながら検討を進める必要があるとしている。

また、施設のハード面だけではなく、文化施設の機能として、特に人材育成等のソフトの機能を充実して施設の効用を発揮していくことが求められており、専門的人材の養成や資質の向上に向けて、それぞれの県立文化施設の特性を生かした人材育成に取り組んでいくことが必要であるとしている。

これらを踏まえて、文化芸術振興施策の推進に当たり、県立文化施設がそれぞれの役割を果たすことができるよう、物的・人的な整備に取り組むため、次のような施策を実施している。

1 県立文化施設の機能の充実

(1) 施策の内容

県民ホール本館及び音楽堂の老朽化に伴い、施設機能の維持や来館者の安全・安心の確保のため、県民ホール本館については、電気設備改修工事のための実施設計を行い、音楽堂については、老朽化に伴う劣化箇所を調査し、改修工事のための基本設計を行った。

また、施設の機能としての人材育成の取組みとして、神奈川芸術劇場において、事業制作・劇場運営、舞台技術に関する専門的人材や、学校等におけるダンス指導者の育成のためのワークショップやインターンの実施、音楽堂においては、ワークショップ実施のノウハウに関するレクチャーなど、施設の特性に応じた事業を実施した。

(2) 施策の効果

改修工事を適切に行い、利用者の方に施設をより安全に利用していただくために必要な整備を行うことができた。音楽堂については施設を維持していくために必要な改修箇所を把握し、音響対策を踏まえた施設の整備方法を検討できた。

また、人材育成に関する事業は、施設を使って、実際の業務を体験することにより、より実践的な研修の場を提供することができた。

(3) 課題・今後の方向性

施設の老朽化に伴い、工事が必要な箇所は多岐にわたり、限られた予算の中では直ちにすべてを改修・修繕することは困難であることから、特に施設の安全面や施設運営に支障をきたす恐れのある箇所を優先的に、改修工事を進めていく必要がある。

また、人材育成に関する取組みについても、ワークショップやインターン等の開催日数が短期間であることから、実施回数や日数を増やすなど、より効果的な取組みとなるような検討を行う必要がある。

(4) 取組み状況

取組みの 名称	取組みの内容・工夫点	実績
(1) 県立文化施設（ホール、劇場等）の計画的な維持・保全等	<p>■県民ホール本館</p> <p>【内容】 開館以来大規模な改修を行っていない電気設備について改修の実施設計を行った。</p> <p>【工夫点】 利用者の安全確保に最も影響すると考えられる電気設備工事について、他の設備工事に先立って工事を行うこととした。</p>	平成 28 年 3 月 実施設計完了
	<p>■県立音楽堂</p> <p>【内容】 音楽堂の老朽化に伴う劣化箇所を調査し、改修工事のための基本設計を行った。</p> <p>【工夫点】 竣工から 60 年以上が経過し、雨漏りなどによる施設の老朽化対策の為、木のホールとしての音響に影響を与えない改修工事の方法を検討するため、音楽堂を造った前川建築設計事務所による、工事の調査・基本設計を行った。</p>	平成 28 年 3 月 基本設計完了
(2) 施設の機能としての人材育成	<p>■神奈川芸術劇場</p> <p>【内容】 「舞台芸術講座若手演出家プロジェクト」 ・若手演出家の育成を目的として、芸術参与 白井晃との対談などをおして、実際に作品の成り立ちを学ぶ。</p> <p>「劇場運営インターン」、「舞台技術インターン」の開催 ・アートマネジメントや舞台技術に関心のある学生等を受け入れ、劇場職員による業務内容と業務体験を行った。</p> <p>「舞台技術ワークショップ」の開催 ・「創作を支える舞台技術」をテーマに、講義や実習等により、作品創作・上演と舞台技術の関係や役割について考えてもらう機会を提供した。</p> <p>【工夫点】 舞台技術・劇場運営に携わることを目指す人々や、学校現場で指導する立場の教員等を対象に、現場での実務体験やプロによる指導等による実践的なプログラムを展開した。</p>	<p><参加者数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手演出家プロジェクト 2 人 ・劇場運営インターン 8 人 ・舞台技術インターン 8 人 ・舞台技術ワークショップ 167 人
	<p>■県立音楽堂</p> <p>【内容】 「マエストロ聖響の夏休みオーケストラ！」の関連企画として、英国人音楽家によるワークショップ「みんなでいっしょに曲を作ろう」を実施した。</p> <p>【工夫点】 通常の体験型ワークショップだけではなく、英国から招聘したワークショップの専門的ノウハウを持つ音楽家による、プロ演奏家へのワークショップのノウハウをレクチャーし、更なる音楽鑑賞普及を図る取り組みを行った。</p>	<p>英国人音楽家によるワークショップ「みんなでいっしょに曲を作ろう」：8 月 12 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：97 人

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

1 県民の文化芸術活動の充実

(1) 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

【施策の方向】

- 地域の伝統芸能の大切さについての理解、認識を深めるとともに、後継者の育成につながるよう、市町村と連携しながら伝統芸能の体験・鑑賞機会の提供、発表機会の確保などに取り組む。
- 文化財の保護を図るため、未指定文化財を調査し、指定等の保護措置を講ずるほか、文化財の活用・保護の普及啓発のため、展覧会や講座などを開催する。

ア 伝統芸能の普及啓発、鑑賞・発表機会の提供

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・文化資源や伝統芸能を活用した文化芸術の発信	※重点施策 1 の「1 伝統芸能の普及啓発、鑑賞・発表機会の提供」と同様の取組み内容のため、記載省略。		
・伝統芸能を支える技術・技能の継承者の育成 ・支援			
・県立文化施設等での伝統芸能にかかわる公演の実施、発表機会の確保			
・能・狂言等鑑賞教室の開催			
・文化芸術団体への支援や連携による発表機会の確保			
・子どもを対象とした民俗芸能フェスティバルの開催			

イ 文化財保護の充実等

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・文化財の指定及び指定文化財に対する助成等の実施	①未指定文化財を指定し、保護措置を図った。 ②指定文化財等の保存修理等に対して、補助金を交付し、文化財の保存活用を図った。	①考古資料（1 件） ②有形文化財保存修理等（14 件） 記念物等保存修理等（7 件） 民俗文化財保存修理等（13 件） 緊急修理等（3 件） 合計 37 件	「鎌倉市下馬周辺遺跡出土の鎧」の県指定重要文化財の指定、県指定重要文化財「杉本寺観音堂」（鎌倉市）の建造物保存修理事業が完了するなど、指定文化財の確実な保存継承を図ることができた。

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
<p>・県立博物館での文化財、伝統芸能等に関する資料の収集、保管、展示</p>	<p>【文化財の収集・保管】 ・博物館資料の購入・修復・修繕 【展覧会】 金沢文庫；特別展・企画展計 5 回 歴史博物館；常設展示、特別展・特別陳列計 7 回</p>	<p>【文化財の収集・保管】 (金沢文庫) 「十二神将像」修理 (歴史博物館) 「天文二十年六月八日付足利晴氏公帖」購入 「脇差(赤羽刀)」緊急修復 「絹本着色 北条時頼像」修繕 重要文化財「十王図(絹本着色)」2 幅修復 【展覧会】 【各館入館者数】 金沢文庫；43,049 人 歴史博物館；178,873 人</p>	<p>展示や調査研究に活用していく資料を購入、また、修復・修繕することにより、資料を保存や展示活動に耐えられるようにできた。</p>
<p>・県ホームページ等による文化財に関する情報の提供</p>	<p>①県ホームページや県庁本庁舎公開日を活用して、貴重な指定等文化財の情報を周知した。 ②無形民俗文化財を紹介するマップを作成・配布した。(再掲)</p>	<p>①県庁本庁舎公開等で「箱根の文化財コーナー」を設置するとともに、ホームページを活用して「箱根の文化財マップ」を提供した。 なお、箱根の文化財コーナーを設置した日の県庁本庁舎公開日の入場者数は 8,928 人、また、箱根の文化財マップを提供したホームページのアクセス数は 1,133 件(平成 28 年 3 月 31 日時点)である。 ②印刷部数：5 万部</p>	<p>①大涌谷において小規模な噴火が発生し、観光客が減少していた箱根町を応援できた。 ②これまで紹介していなかった市町村指定の無形民俗文化財を紹介しており、市町村の文化財を応援できた。</p>

(2) 県民の文化芸術活動の充実

【施策の方向】

- 県立文化施設での文化芸術に関する講座・講演会等の開催や、広報誌やホームページなどで文化芸術に関する情報提供を行うことにより、県民の文化芸術に対する関心や理解を深めます。
- 県立文化施設での公演、展覧会などの鑑賞機会の提供や優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する文化芸術団体への支援により、県民の鑑賞機会の充実を図ります。
- 県民が文化芸術活動(創作・練習・稽古・発表等)を行う際に利用できる文化施設を整備し、運営するとともに、県民が参加できる展覧会やコンクールなどの開催により、県民自らが行う文化芸術活動を支援します。
- 県内各地で開催される文化芸術の催しや文化芸術団体の活動情報など、県民が文化芸術の鑑賞や活動を行う際に必要とする情報を広報誌やホームページなどで提供します。

ア 文化芸術に対する関心、理解を深めるための普及啓発

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
<p>・ 県立文化施設での文化芸術に関する講座、講演会等の開催</p>	<p>■ 県民ホール本館 館の所有する楽器（パイプオルガン・チェンバロ）を生かした講座や、主催公演（オペラ）の作品解説の講座といった、館の設備や事業と連携した舞台芸術講座を開催した。</p> <p>■ 神奈川芸術劇場 舞台芸術（主にダンス）の魅力を体験するワークショップや、障害とアートのかかわりを探るワークショップ、主催公演（演劇）の作品開設の講座などの講座を開催した。</p>	<p>■ 県民ホール本館 舞台芸術講座（3回） ・参加者数：949人</p> <p>■ 神奈川芸術劇場 教育普及事業（13回） ・参加者数：1,076人 地域等連携事業（1回） ・参加者数：12人</p>	<p>■ 県民ホール本館 館所有楽器の紹介や主催事業のプレイベント的な役割として、音楽やホール等への興味を持ってもらうきっかけとして、観客層の裾野を広げる役割を果たせた。</p> <p>■ 神奈川芸術劇場 ダンスのワークショップを通じて、舞台芸術の魅力・楽しさを伝えることができた。 また、あらゆる人々がアートを享受できる環境整備の議論への端緒となった。</p>
	<p>■ 神奈川近代文学館 近代文学に対する知識や教養を高めるため、ギャラリートーク、講演会、朗読会、講座、映画会などを実施した。</p>	<p>■ 神奈川近代文学館 年間 63 回 ・入場者数 6,362 人</p>	<p>■ 神奈川近代文学館 展覧会に関連したテーマでイベントを開催することで、利用者は展示についての理解を深めることができた。 さまざまな分野のイベントを開催することで、近代文学館を訪れる機会の提供にも大きな役割を果たしている。</p>
<p>・ 県立文化施設での文化芸術に関する講座、講演会等の開催</p>	<p>県立社会教育施設の機能と特色を生かした「県立機関活用講座」を計6講座実施し、県民の生涯学習機会を提供した。</p>	<p>【県立図書館】 「大山道の歴史を語る」（4回） 【金沢文庫】 「仏教説話の世界」（6回） 「一遍聖絵を語る」（5回） 【近代美術館】 「鎌倉からはじまったー近代美術館とわたし」（5回） 【歴史博物館】 「県博セミナーⅠ期 五姓田義松を多彩に語る」（4回） 「県博セミナーⅡ期 一遍聖絵を旅する」（3回） ・延べ参加人数：731人</p>	<p>各施設の特色を活かして、展覧会に即した講座を実施し、県民の生涯学習機会を提供した。</p>

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 広報誌、ホームページによる普及啓発の実施	「神奈川アーツプレス」の発行・配布による公演情報等の周知 各施設HP、ポータルサイト「かな@」による公演情報の周知	広報誌の配布 「神奈川アーツプレス」発行部数：年間 36 万部 各文化施設等のHPアクセス数 県民ホール本館：958,112 件 神奈川芸術劇場：674,040 件 県立音楽堂：197,438 件 「かな@」：7,551 件	公演事業等の情報提供のための基本的なツールとしての役割を果たした。

イ 鑑賞機会の充実

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 県立文化施設での公演事業の実施	県民ホール本館、神奈川芸術劇場における主催・共催・提携公演の実施した。 各館の特性を生かしたプログラムにより、県民への鑑賞機会を提供した。	■ 県民ホール本館 主催公演 大ホール 8 公演 13,399 人 小ホール 17 公演 5,129 人 ギャラリー 1 公演 131 人 共催公演 大ホール 17 公演 27,308 人 小ホール 8 公演 2,039 人 ■ 神奈川芸術劇場 主催公演 ホール 74 公演 37,739 人 スタジオ 57 公演 7,973 人 共催公演 スタジオ 4 公演 739 人 提携公演 ホール 23 公演 19,368 人 スタジオ 82 公演 11,938 人	県民等への文化芸術の鑑賞機会の提供につながった。
・ 県立近代美術館での美術作品の展覧会の開催 ・ 普及活動の実施	【展覧会】 葉山・鎌倉・鎌倉別館で計 10 展覧会を開催 【教育普及事業】 ・ シンポジウム・美術講座等の開催 ・ ワークショップ、先生のための特別鑑賞の時間、学校との連携事業開催 ・ 夏休み期間中、小・中・高校生を対象に教育普及事業としてノベルティ・グッズ配付	【展覧会入館者数】 168,012 人 【教育普及事業】 ・ シンポジウム、美術講座；延参加人数 1,368 人 ・ ギャラリートーク；延参加人数 615 人 ・ ワークショップ；延参加人数 1,254 人 ・ 先生のための特別鑑賞の時間；延参加人数 94 人 ・ 学校との連携事業；延参加人数 29 人	県立社会教育施設として、県民に優れた近代美術を鑑賞する機会を提供することによって、県民の生涯学習機会の拡大が図られた。 小・中学生から高齢層まで幅広く美術理解を促し、美術鑑賞をより身近なものとして提供することができた。

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立博物館での文化芸術に関する資料等の展示、展覧会の開催 ・ 普及活動の実施 	<p>【展覧会】 金沢文庫；特別展・企画展計 5 回 歴史博物館；常設展示、特別展・特別陳列計 7 回 生命の星・地球博物館；常設展示、特別展・企画展計 2 回</p> <p>【教育普及事業】 ・ シンポジウム ・ 講座等の開催 ・ ワークショップ、学校との連携事業開催</p>	<p>【各館入館者数】 金沢文庫；43,049 人 歴史博物館；178,873 人 生命の星・地球博物館；295,644 人</p> <p>【教育普及事業】 (金沢文庫) 特別講演会 6 回、延参加人数 583 人 月例講座 9 回 延参加人数 844 人 解説講座等 18 回 延参加人数 874 人 (歴史博物館) 県博講座 30 回 延参加人数 1,982 人 展示解説 53 回 延参加人数 3,614 人 青少年向け講座 11 種 延参加人数 6,087 人 特別記念公演会 全 9 回 延参加人数 574 人 (生命の星・地球博物館) 子ども自然科学広場 50 日 延参加人数 7,059 人 夏休み子ども向け講座 6 回 延参加人数 153 人</p>	<p>県民のニーズに対応しながら、調査研究の成果や新しい学問動向を反映させた学習支援事業を行うとともに、県民に対する質の高い知的情報の提供を行うことにより、県民の生涯学習の機会の拡大が図れた。 小・中学生から高年齢層まで幅広く美術理解を促し、美術鑑賞をより身近なものとして提供することができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立近代美術館での美術作品の展覧会の開催 ・ 普及活動の実施 	<p>※重点施策 2 の「1 文化芸術の鑑賞機会の提供」と同様の取組み内容のため、記載省略。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立博物館での文化芸術に関する資料等の展示、展覧会の開催 ・ 普及活動の実施 			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化芸術団体との連携による鑑賞機会の提供 	<p>(公財) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団の公演の支援等により、県民に鑑賞機会の提供をした。</p>	<p>神奈川フィル演奏会 県内 168 回開催 ・ 来場者数：151,015 人</p>	<p>神奈川フィルの演奏会への支援を行い、県民に文化芸術活動を鑑賞する機会を提供した。</p>

ウ 県民の文化芸術活動や発表機会の支援

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 県立文化施設での練習・発表等の活動の場の提供	かながわアートホールの各施設における練習・発表等の活動（貸館）	ホール利用率：93.7% スタジオ利用率：81.3% （第1～5スタジオ平均） 利用人数：49,936人	ホールの役割に沿って、利用者の活動の場を提供することができた。
・ 県美術展の開催	昨年に引き続き、県内の中学生、高校生を対象にした中高生特別企画展も同時開催した。 写真部門の出品料を7,000円から5,000円に値下げした。 開かれた公募展であることをアピールするために第51回より募集要項、ポスターのデザインを一新した。	応募点数：1,007点 応募人数：704名 入選者数：348名 入賞者数：38名 展覧会入場者数：5,047名	県内の美術作家に作品の創作・発表の機会を提供するとともに、優れた美術作品を鑑賞する機会を県民に提供することができた。 中高生特別企画展を実施することで、青少年の創作活動を支援できた。
・ 文化芸術団体の創作・発表等の活動への助成等による支援	※重点施策1の取組み「(5)文化芸術団体への支援や連携による発表機会の確保」と同様のため、記載省略。		
・ 伝統芸能、舞台芸術作品等の公演などへの共催等による支援	「歌舞伎鑑賞教室」等 県の共催とすることで、公演団体等の持つノウハウや自発的な実施能力を活用し、県独自では困難な各種の文化事業を展開した。 また、事業費を県が一部負担し、資金不足の団体の発表の場を確保した。	[民俗芸能・伝統芸能関連] 歌舞伎鑑賞教室 2,789人 人形浄瑠璃文楽 1,079人 かながわの地芝居フェスティバル 610人等、7公演開催 合計来場者数：7,289人	少子高齢化などの影響で担い手や資金不足などに苦しむ伝統芸能・民俗芸能を支えるとともに、県民が文化芸術活動を鑑賞する機会を提供し、地域の伝統芸能の大切さについての理解、認識を深める効果があった。
・ アマチュア・ミュージシャンなどの発表機会の支援	・ カナガワ ミュージックサミット 2015 県内各地で開催されたコンテストのグランプリアーティスト等のミュージシャン達が一堂に会する音楽の祭典 県庁本庁舎公開と連動して実施した。	9月22日（日） ・ 観覧者数：2,000人	県庁舎の敷地内にステージを設け、本庁舎公開と連動したことで、歴史的建造物という独特の雰囲気の中、普段コンサート等に訪れない方々にも親しんでもらうことができ、各ミュージシャン達の発表機会の拡大に寄与した。

エ 文化芸術活動に関する情報の提供

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・文化芸術に関する広報誌の発行	※基本的な施策 1-(2)-アの取組み「広報誌、ホームページによる普及啓発の実施」と同様のため、記載省略。		
・ホームページ、フェイスブック、ポータルサイトによる公演情報、文化芸術活動のための情報	・ポータルサイト「MAGCUL.NET」 ポータルサイトの掲載施設数やイベント情報の増を図るとともに、著名人のインタビュー、コラム記事などの企画記事の掲載並びに Facebook、Twitter を随時更新するなど、内容の充実を図ることにより、神奈川の文化芸術を広く周知した。	月平均ページビュー数：29,602 人 月平均ユーザー数：14,263 人	平成 24 年のポータルサイト開設以降、掲載施設数やイベント情報数を増やし、内容の充実を図ることで、着実にアクセス数を伸ばした。その結果、文化芸術施設やイベントへの訪問者数を増加させ、マグネット・カルチャー（マグカル）の目標である街の賑わい創りに寄与した。

(3) 芸術家等の育成等に関する支援等

【施策の方向】

- 将来の活躍が期待される芸術家等の発掘や育成支援を実施し、また、文化施設で催される様々な公演事業を支える舞台技術者等の育成に取り組みます。
- 県立文化施設などを活用し、芸術家等が創作・練習・稽古等に利用しやすい仕組みづくりを行うなど、創作のための環境の整備を図ります。
- 芸術家等の創造的活動の成果を発表するための展覧会や公演事業などを開催するとともに、県立文化施設の主催事業などで将来の活躍が期待される芸術家等の積極的な登用を行い、また市町村と連携し、アマチュア・ミュージシャンなどの活動を支援します。

ア 芸術家や文化芸術を支える活動を行う者の育成

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・神奈川文化賞 ・未来賞等による顕彰の実施	「神奈川文化賞」、 「神奈川文化賞未来賞」 神奈川県在住、在職又は神奈川に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を贈呈した。 平成 13 年度に、神奈川文化賞の第 50 回を記念し、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に贈呈するために「未来賞」を創設した。	11 月 3 日文化の日に神奈川県民ホールで贈呈式を実施。「神奈川文化賞」は、西洋建築史研究の吉田鋼市さん、装幀家の菊地信義さん、女優の五大路子さん、解剖学者の養老孟司さんの 4 名を顕彰した。 「神奈川文化賞未来賞」は、指揮者の川瀬賢太郎さん、棋士の甲斐智美さんの 2 名を顕彰した。	文化賞については、神奈川に深いゆかりのある者で、その功績顕著な個人又は団体に贈呈することにより、神奈川の文化の向上発展に寄与し、県民の文化振興に貢献した。 また、未来賞については、国内外の水準の高い芸術コンクールの上位入賞者や新人発掘を目的とした顕彰事業の受賞者など、功績顕著な若い世代で神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される方に贈呈することができた。

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 舞台技術者等の文化芸術を支える者の研修等による育成支援	※重点施策 5 の取組み「(2)施設の機能としての人材育成」と同様のため、記載省略。		
・ 新進芸術家等の育成支援の検討	※重点施策 4 の取組み「(3)新進芸術家等への支援の検討」と同様のため、記載省略。		

イ 創作のための環境整備

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 県立文化施設の練習・稽古等での活用	※基本的な施策 1 - (2) - ウの取組み「県立文化施設での練習・発表等の活動の場の提供」と同様のため、記載省略。		
・ 新進芸術家の創作環境支援の検討	※重点施策 4 の取組み「(3)新進芸術家等への支援の検討」と同様のため、記載省略。		

ウ 創造的活動の成果を発表する機会の確保

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 県美術展の開催	※基本的な施策 1 - (2) - ウの取組み「県美術展の開催」と同様のため、記載省略。		
・ 文化芸術団体との連携による新進芸術家を起用した演奏会等の開催	※重点施策 4 の取組み「(3)新進芸術家等への支援の検討」と同様のため、記載省略。		
・ 県立文化施設主催事業における新進芸術家の積極的登用	※重点施策 4 の取組み「(3)新進芸術家等への支援の検討」と同様のため、記載省略。		
・ 新進芸術家の発表機会支援の検討	※重点施策 4 の取組み「(2)文化芸術団体・芸術系大学等との連携による先駆的で発信性の高い文化芸術の創造」と同様のため、記載省略。(平成 27 年度は該当事業実施なし)		
・ ストリート・ミュージシャン等アマチュア・ミュージシャンなどの発表機会の支援	※基本的な施策 1 - (2) - ウの取組み「アマチュア・ミュージシャンなどの発表機会の支援」と同様のため、記載省略。		

(4) 文化芸術団体の育成等

【施策の方向】

- 文化芸術団体の自主的な活動を支援することにより、文化芸術団体の多様な活動を促進するとともに、文化芸術団体との連携・協働に取り組みます。

・ 文化芸術団体の育成・支援、連携・協働の推進

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 文化芸術団体への助成等による支援	※重点施策 1 の取組み「(5)文化芸術団体への支援や連携による発表機会の確保」と同様のため省略		
・ 文化芸術団体の活動に対する後援	芸術文化団体等が主催する、県内において実施する事業について、県の文化芸術の振興に寄与すると認められるものに、神奈川県の後援名義の使用を承認した。	後援名義の使用承認実績：135 件	県民が自主的に行う芸術文化活動を一層活発にし、地域の芸術文化全般の振興を促進することができた。
・ 県実施事業等における文化芸術団体との連携・協働の推進	※重点施策 1 の取組み「(1)文化資源や伝統芸能を活用した文化芸術の発信」と同様のため、記載省略。		
・ 文化芸術団体相互の連携の促進	※基本的な施策 1 - (2) - ウの取組み「アマチュア・ミュージシャンなどの発表機会の支援」と同様のため、記載省略。		

(5) 子どもの文化芸術活動の充実

【施策の方向】

- 県立文化施設等で子どもたちが様々な文化芸術を鑑賞する機会を提供します。
- 子どもたちが自ら行う文化芸術活動を支援するとともに、文化芸術を体験する機会の充実を図ります。

ア 文化芸術の鑑賞機会の提供

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 学校等と連携したアウトリーチの展開	※重点施策 2 の「1 文化芸術の鑑賞機会の提供」と同じ取組み内容のため、記載省略。		
・ 県立文化施設での子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施			
・ 文化芸術団体との連携による子どもたちを対象とした音楽体験事業等の実施			
・ 県立近代文学館での児童文学を題材とした展覧会等の実施			

イ 文化芸術活動の体験機会の充実

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・子どもを対象とした公募美術展開催等の創作活動の支援	※重点施策 2 の「2 文化芸術活動の体験機会の充実」と同じ取組み内容のため、記載省略。		
・文化芸術団体との連携・協働による子どもたちの文化芸術活動の推進			
・青少年センター、藤野芸術の家での文化芸術を体験する機会の提供			
・伝統芸能ワークショップの実施			
・県立近代文学館での子どもたちが読書に親しむための事業の実施			
・子どもを対象とした民俗芸能フェスティバルの開催			

(6) 学校教育における文化芸術活動の充実

【施策の方向】

- 小中学校などの学校教育における文化芸術に関する体験学習などの充実を図るとともに、芸術家等や文化芸術団体が学校教育の中で行う文化芸術活動に必要な協力や支援を実施します。

・ 文化芸術に関する体験学習等の充実

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・文化芸術団体との連携による音楽体験事業等の実施	※重点施策 2 の取組み「(3)文化芸術団体との連携による子どもたちを対象とした音楽体験事業の実施」と同様のため、記載省略。		
・能・狂言等鑑賞教室の開催	※重点施策 1 の取組み「(4)能・狂言等鑑賞教室の開催」と同様のため、記載省略。		
・文化芸術による子供の育成事業(文化庁事業)の県内での展開	※重点施策 2 の取組み「(13)文化芸術による子供の育成事業(文化庁事業)の県内での展開」と同様のため、記載省略。		

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 高校文化部活動の充実・支援の実施	「かながわ部活ドリーム大賞」として、文化活動における生徒の活動成果を表彰した。	平成 28 年 2 月 6 日（土）表彰式 参加者数：182 人（表彰者、保護者、引率者等）	文化活動における生徒の素晴らしい成果を表彰し、対外的に発信することで、今後の文化活動への意欲の向上につながった。
・ 県高等学校総合文化祭の開催	県内高等学校の文化・芸術活動において、相互交流・啓発を促進し、文化・芸術活動の一層の活性化を図った。	総合文化祭（開会式・専門部門 26 部門各会場、閉会式延べ約 10,500 人参加）	文化部活動の活性化のための優れた取組みを奨励することができた。
・ 県立高校における文化芸術にかかわる科目等の充実及び文化芸術の発展に寄与する人材の育成	※重点施策 2 の取組み「(14) 県立高校における文化芸術にかかわる科目等の充実及び文化芸術の発展に寄与する人材の育成」と同様のため、記載省略。		
・ 伝統音楽に関する指導者ワークショップの実施	(平成 27 年度は該当事業実施なし)		
・ 芸術家等や文化芸術団体と連携した教育の実施	※重点施策 2 の取組み「(16) 芸術家等や文化芸術団体との連携した教育の実施」と同様のため、記載省略。		
・ 学校と文化施設との連携の推進	※重点施策 2 の取組み「(1) 学校等と連携したアウトリーチの展開」と同様のため、記載省略。		

(7) 高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実

【施策の方向】

- 高齢者、障害者、子育て中の保護者などが、文化芸術に親しみ自ら文化芸術活動を楽しめるよう、文化芸術団体と協力しながら、文化芸術の鑑賞機会の提供や自らが文化芸術活動を楽しむための取組みを推進するとともに、文化施設のバリアフリー化や利用サービスの向上に努めます。

・ 高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
<p>・ 美術展など高齢者を対象とした文化芸術事業の実施</p>	<p>「かながわシニア美術展」 県内在住で昭和 32 年 4 月 1 日以前生まれのアマチュアの方を対象に、日本画、洋画、彫刻・工芸、書、写真の 5 部門について、自ら制作・撮影した未発表作品 1 点を公募し、県民ホールで展示会を開催した。</p>	<p>8 月 27 日～30 日にかけて開催した。 ・ 出品者数：475 人 ・ 延べ来場者数：2,094 人</p>	<p>高齢者の創作による日本画、洋画、彫刻・工芸、書、写真の作品を展示し、高齢者の文化活動を促すとともに、ふれあいと生きがいづくりを推進した。</p>
<p>・ 県立施設における文化芸術活動の場の提供などによる障がい者の自主的な活動の支援</p>	<p>ライトセンターで 13 の文科系クラブ活動を実施した。</p>	<p>・ 活動回数：288 回 ・ 活動人数：207 人</p>	<p>障害者が文化芸術活動を楽しむための取組みが推進された。</p>
<p>・ 特別支援学校、障がい者施設、高齢者施設等での文化芸術団体による公演の実施</p>	<p>【内容】 「子ども・青少年への音楽体験の提供」をめざして「子どものためのアウトリーチ事業」の一環として、を「音楽堂ふれあいアウトリーチ」を実施した。 楽器に触れられるワークショップ等を行い、子どもたちが音楽に触れる機会を提供した。 【工夫点】 県教育委員会を介して学校との連携を取り、施設になかなか足を運べない子どもたちのために、県内養護学校へアウトリーチを実施した。</p>	<p>1 月 14 日：岩戸養護学校 ・ 参加者数：132 人</p>	<p>子ども向け鑑賞普及事業や、ふれあいアウトリーチ事業では、大人に比べて音楽鑑賞機会の少ない子どもたちに対して、音楽鑑賞に対する興味・関心を持ってもらうということを目的とした観点から事業に取り組み、27 年度も多くの参加者から、「よかった」「また参加したい」といった肯定的な意見を得ている。 毎年こうした取組みを重ねることで、音楽堂から遠く離れた地域の子どものたちにも、音楽や文化芸術への関心が少しずつ定着してゆくといった効果が得られている。</p>
<p>・ 県立文化施設での託児サービス等の実施</p>	<p>託児ルームの設置・運用 (K A A T)</p>	<p>託児ルーム開設日数 主催公演：11 演目 18 日 託児サービス利用者数 (主催公演のみ) 59 人</p>	<p>主催公演等で、乳幼児を育てる人々に文化芸術の鑑賞機会の提供に寄与した。</p>

2 文化資源を活用した地域づくりの推進

(1) 文化芸術に関する交流の推進

【施策の方向】

- 国民文化祭等への参加や他県との交流事業の実施などにより、文化芸術の地域間交流を推進します。
- 文化芸術を介した国際交流事業の実施や県立文化施設での海外の作品の鑑賞機会の提供などにより、国際交流や海外の文化芸術に対する理解を深める取組みを推進します。
- 各国の文化を紹介し、外国籍県民との交流を図る催しや講座を実施するなど、多文化理解を推進します。

ア 地域交流の推進

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 他県との文化芸術を介した交流の推進	<p>■ 神奈川近代文学館</p> <p>県外の類似施設の展示に対して資料の貸出を行っている。また、近代文学館での特別展、企画展の実施にあたり、全国各地の文学館や図書館、個人から資料の借入れを行っている。</p>	<p>県外の類似施設の特別展等での貸し出しは、調布市武者小路実篤記念館（2回）、文京区立森鷗外記念館、群馬県立館林美術館、北九州市立文学館、新宿区立新宿歴史博物館（2回）、江戸東京たてもの園、中原中也記念館、群馬県立土屋文明記念文学館、菊地寛記念館、町田市民文学館ことばらんど、佐佐木信綱記念館、大黒屋光太夫記念館、碧南市藤井達吉現代美術館、福井県ふるさと文学館、姫路市立美術館で計 17 回、360 点であった。</p>	<p>他県との文学を通じた交流を行うとともに、展示の充実に貢献できた。また、他県からの資料の借入れを行うことで、近代文学館での展示も充実したものとなった。</p>
・ 国民文化祭への県内文化芸術団体の参加促進	<p>国民文化祭の開催県である鹿児島県と連携し、参加団体へ国民文化祭の開催及び参加を周知した。</p>	<p>能楽の祭典 1 団体・3 人 現代劇の祭典 1 団体・12 人 小倉百人一首かるた競技全国大会 1 団体・9 人 オーケストラの祭典 2 団体・2 人 和太鼓の祭典 1 団体・40 人 日本舞踊の祭典 1 団体・4 人 邦楽の祭典（詩吟）1 団体・2 人 邦楽の祭典（薩摩琵琶）1 団体・5 人</p>	<p>鹿児島県での開催にも関わらず、9 団体、77 人の参加があった。</p>
・ 全国高等学校総合文化祭への参加	<p>県内高等学校の文化・芸術活動において、相互交流・啓発を促進し、文化・芸術活動の一層の活性化を図った。</p>	<p>全国高等学校総合文化祭滋賀大会（627 名参加）</p>	<p>○ 高校生の文化活動に係る相互交流機会の提供することにより、文化・芸術活動の活性化を図ることができた。 ○ 文化部活動の活性化のための優れた取組みを奨励することができた。</p>
・ 県高等学校総合文化祭の開催		<p>総合文化祭（開会式・専門部門 26 部門各会場、閉会式延べ約 10,500 人参加）</p>	

イ 国際文化交流の推進

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川の文化芸術の海外発信 ・ 三県省道等の文化交流事業の推進 	※重点施策 3 「1 国際文化交流の充実」と同じ取組み内容のため、記載省略。		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際児童画展の開催 	<p>次代を担う子どもたちの夢と創造力を育み、絵画を通じてお互いの生活や文化を理解し、交流を深めるふれあいの場となることを目的として、昭和 56 年（1981 年）から隔年でビエンナーレ国際児童画展を開催している（応募資格：満 4 歳以上 15 歳以下。テーマは自由。）。平成 27 年度は第 18 回展を実施した。また、神奈川の児童画展を広く周知するため、審査員の一人が代表を務めている北海道十勝芽室町の NPO 法人に作品貸出を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 18 回展応募総数 26,472 点（海外 95 ヶ国 2 地域 23,948 点、県内 2,524 点） ・ 表彰式 7 月 4 日 入賞：520 点 （大賞：知事表彰 3：海外 2、県内 1、総務大臣賞等特別賞 50：海外 37、県内 13、入選 467：海外 351、県内 116） ・ 展覧会 7 月 3 日～8 月 23 日 来場者数：6,961 人 ・ 巡回展 県内 14 箇所 ・ 作品貸出 北海道外 11 箇所 	<p>広く世界各地から作品を募集し、また受賞作品の地球市民かながわプラザでの展覧会や巡回展等を行うことで、絵画を通じて国際理解と国際交流の推進を図っている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「アーティスト・イン・レジデンス」 	<p>「西湘地区アーティスト・イン・レジデンス」を実施し、国内外のアーティストを招聘して、一定期間、地域に滞在してもらい、地域資源・文化資源等に触れるとともに、地域住民との交流を図りながら、芸術作品の制作、発表、展示を行ってもらうことで、神奈川発のオリジナルかつ魅力的なコンテンツを創作・発信した。</p>	<p>制作： 11 月 22 日～11 月 29 日 ※期間中、公開制作、シンポジウム、コンサート、ワークショップを行う</p> <p>展示： 小田原清閑亭 12 月 1 日～12 月 7 日 すどう美術館 1 月 5 日～1 月 17 日</p>	<p>アートという接点によって、文化や習慣の違いを超えた国内外の地域交流が生まれ、発展していくことで、新しい可能性にあふれた豊かな作品や文化芸術環境が生まれた。</p> <p>また、公開制作や展示会を通じて、地域の人々へ文化芸術の普及の機会づくりに寄与した。</p>

ウ 多文化理解の推進

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・「あーすフェスタかながわ」など多文化理解や交流を推進するための事業の実施	多様な国籍文化や民族の違いを理解し、認め合うことのできる多文化共生社会の実現をめざし、あーすフェスタかながわ 2015 を実施するとともに、地域イベントへの展開を図る。	民族芸能ステージ、外国籍県民フォーラム、ワークショップ、各国屋台等：5月16日、17日 ・延べ参加者数：約 19,000 人	外国籍県民、NGO、地域住民との協働・連携による企画・運営により、交流の輪を広げることにより、多くの県民に対する多文化理解を推進できた。
・地球市民かながわプラザ等での多文化理解を推進するための講座等の実施	多文化共生の地域社会づくりに向け、多文化理解を推進するため、地球市民かながわプラザにおいて、展示学習などの学習センター事業、映像・図書資料の収集提供や外国籍県民相談等の情報・相談センター事業やNPO等活動支援などのサポート・ネットワーク事業等を実施する。	指定管理により、子どもから大人まで幅広い年齢層にプラザの理念や趣旨を魅力的に伝え、家族連れや友達同士で楽しく遊べるプログラムを実施する展示学習事業や、大人を主な対象にした写真展「聖地巡礼」やフライデーナイトシアター(5回)などの企画をバランスよく実施し、また校外学習を受け入れる(174校7,059名)などを行い、年間を通して、開館以来最高の403,392人の利用があった。	子どもから大人まで多くの利用者の確保を通して、県民の多分文化理解の推進に役立った。

(2) 創造的活動等の推進

【施策の方向】

- 県立文化施設の活用や文化芸術団体との連携により、新しい文化芸術の創造的活動を推進するとともに、これらを国内外に発信する取組みを実施します。

・ 創造的活動等の推進と発信

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 県立文化施設における新たな舞台芸術作品等の創造・発信	※重点施策4「1 創造的活動の推進と発信」と同じ取組み内容のため、記載省略。		
・ 文化芸術団体・芸術系大学等との連携による先駆的で発信性の高い文化芸術の創造			
・ 新進芸術家等への支援の検討			

(3) 文化資源の活用

【施策の方向】

- 県内の文化資源の発掘に努め、その具体的な活用方策を検討します。また、地域の活性化等に活用可能な文化資源については、市町村、文化芸術団体、芸術家、企業などとの連携により有効活用に努めるとともに、その魅力を広くPRするための情報発信に取り組みます。

ア 文化芸術事業の発信力の強化（「マグカル」のブランド力の強化）

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 神奈川発のコンテンツの創出	※重点施策4「2 文化芸術事業の発信力の強化（「マグカル」のブランド力の向上）と同じ取組み内容のため、記載省略。		
・ 「マグカル」の全県展開			
・ パフォーミングアーツ人材の育成			

イ 文化資源を生かした地域の活性化

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 相模湾沿岸をはじめとした地域に残る近代建造物と邸園を保全・活用した地域づくりの推進	湘南邸園文化祭を協働開催した。	9月～12月にかけて相模湾沿岸の14市町の邸園等において、31の市民団体により、60の文化イベントを実施、19,267人の参加があった。	当該地域の邸園等の価値を周知するとともに、保全・活用の意義について啓発することができた。
・ 県西地域の豊かな自然環境や歴史的・文化的遺産などを活用した箱根ジオパーク等の取組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンポジウム・講演会の開催 ・ PRイベントの実施 ・ ガイド養成講座の開催 ・ ジオツアーの実施 ・ 小中学校等での教育活動 ・ サイン整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンポジウム・講演会の開催（6回） ・ PRイベントの実施（12回） ・ ジオガイド養成講座の開催（9回） ・ ジオツアーの実施（6回） ・ 小中学校等での教育活動（27回） ・ サイン整備（新規解説板設置8基、多言語QRコード貼付7箇所） 	各種啓発活動やサイン整備等の推進により、箱根ジオパークに対する地域の機運醸成及びジオパークとしての環境整備を着実に進めることができた。

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・「鎌倉」の世界文化遺産登録の推進	<p>世界遺産登録を目指す「鎌倉」の構成資産について、適切な保存管理と積極的な公開活用を図るため、県費補助金による助成を行った。</p> <p>また、候補遺産が最も多く所在する鎌倉市の準備作業を促進するため、交流職員による人的支援を実施した。</p> <p>この他、国内外の類似資産との比較研究を行うため、現地調査を実施した。</p> <p>さらに、比較研究成果の中間報告のための連続講座及び「歴史的遺産と共生する、これからのまちづくり」をテーマとする講演会を開催した。</p>	<p>県費補助金については、約 44,381 千円を負担し、事務職員 1 名の人的交流を行った。</p> <p>現地調査は、国内 9 回、国外 3 回を実施した。</p> <p>連続講座は計 3 回開催し、それぞれ 96 名、88 名、103 名が参加した。講演会は 1 回開催し、170 名が参加した。</p>	<p>再推薦に向けて、顕著な普遍的価値を証明するための比較研究を通じて、「鎌倉」の特徴の一端を明らかにすることができた。</p> <p>また、連続講座や講演会の開催を通じて、世界文化遺産登録の推進に係る普及啓発を図ることができた。</p>
・地域に伝承されてきた文化等の発掘・発信・体験の促進	※重点施策 1 の取組み「(1)文化資源や伝統芸能を活用した文化芸術の発信」と同様のため、記載省略		
・県立文化施設の地域の賑わい創出等への活用	※重点施策 3 の取組み「(1)神奈川の文化芸術の海外発信」と同じ取組みのため、記載省略。		
・ホームページ等による、県内の伝統的な行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報の発信	<p>①観光情報サイト「観光かながわ Now」における行事やお祭り、文化イベント等の情報提供 地域や実施時期による検索が可能</p> <p>②「お祭りガイド」の作成 職員提案事業の具体化</p>	<p>①「観光かながわ Now」の平成 27 年度ページビュー数 約 1,300 万 P V</p> <p>②動画とリーフレットで「お祭りガイド」を作成し、県 H P の観光情報ページや、ユーチューブ、かなチャンネル T V 等での発信を開始。 リーフレット 2 万部</p>	<p>①行事やお祭り、文化イベント等の情報発信による誘客</p> <p>②地域住民以外でも参加できるお祭りの P R</p>
・地域の製品の普及、伝統的工芸品の製品フェア開催など文化資源の普及、育成	<p>①伝統的工芸品展 W A Z A 2016</p> <p>②関東ブロック伝統的工芸品展 伝統的工芸品の普及促進、同産地の需要開拓並びに産業後継者発掘の促進等を目的に開催し、商品開発に役立て、消費者ニーズの把握等により、同産業の一層の発展を目的としている。</p>	<p>①平成 28 年 2 月 18 日から 23 日まで東武百貨店池袋店で開催し、会期中に 133,161 名が来場した。</p> <p>②平成 27 年 11 月 23 日から 25 日までヒューリックホールで開催し、会期中に 623 名が来場した。</p>	<p>実演販売や体験コーナー等を通じて、職人と直接話しを行ったり、作品に触れる機会の提供により、広く伝統的工芸品の普及をすることができた。</p>
・フィルムコミッション活動支援事業の推進	<p>・神奈川ロケーションサポートデスクの設置 制作会社からの問い合わせに対して、お薦めロケ地の P R や、フィルムコミッションの紹介、市町村との調整などのワンストップ機能を担う。</p>	<p>・問い合わせ件数：194</p> <p>・ロケ対応件数：4 件</p>	<p>・旅番組とのコラボレーションによる本県事業の P R</p> <p>・本県の観光地の情報発信</p>

(4) 景観の形成

【施策の方向】

- 県内各地の自然景観、歴史的景観、都市景観などの良好な景観の形成に当たっては、文化的諸条件などに配慮し、魅力ある景観づくりに取り組みます。

・良好な景観の形成

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・「神奈川景観づくり基本方針」に基づく魅力ある景観づくりの推進	基本方針では、市町村の役割の重要性から「全ての市町村が景観行政団体となるよう支援する」旨を定めているので、未移行団体の町村と意見交換を実施し、景観に関する諸問題について共通認識を図った。	各町村と意見交換を実施するとともに、「景観形成に関するチェックシート」を作成した。	各町村に「景観形成に関するチェックシート」の作成により、県と町村の共通認識を確保した。
・文化財保護法に基づく重要文化的景観の選定に係る検討	(平成 27 年度は、市町村等から重要文化的景観の申出はなし。)		
・歴史まちづくり法等に基づく関連文化財所在市町村への助言	歴史的風致維持向上計画協議会等への助言	小田原市及び鎌倉市の法定協議会への参加	各市の計画内容のうち、国庫補助金又は交付金の新規採択を実現した。

3 文化芸術の振興を図るための環境整備

(1) 文化資源の活用

【施策の方向】

- 学校開放などの取組みにより、空き教室や休日等の学校施設を県民の文化芸術活動のために利用できるよう努めます。また、文化施設以外の庁舎などの公共的施設についても、作品の展示などの利用ができるよう取り組みます。

・学校施設、公共施設等の活用

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・学校施設、公共的施設の文化芸術活動の練習、稽古、発表の場としての活用	学校施設の施設開放	(スポーツ関連の施設開放の取組みは行っているが、文化芸術活動に関する実績はない。)	
	公共施設の文化芸術の発表の場としての活用	※重点施策 4 の取組み「(1)神奈川神奈川発のコンテンツの創造」と同じ取組みのため、記載省略。	

(2) 県立文化施設の充実

【施策の方向】

- 県立文化施設では、文化芸術の鑑賞や活動、交流の場としての機能に加えて、施設の特성에応じて、文化芸術に関する人材の育成や教育普及活動に取り組みます。
- 県立文化施設の機能を最大限に発揮させるため、効果的な事業の実施や効率的な施設運営等について、適切な検証を行います。

ア 県立文化施設の機能の充実

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 県立文化施設（ホール、劇場等）の計画的な維持・保全等	※重点施策 5 「1 県立文化施設の機能の充実」と同じ取組み内容のため、記載省略。		
・ 施設の機能としての人材育成			

イ 運営方法の点検等

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 施設利用者を対象としたアンケート調査の実施	《利用者満足度調査》 県民ホールほか 2 施設 【内容】 県民ホール、県立音楽堂の指定管理者に対して、県行政管理課が定める「指定管理者制度の運用に関する指針」及び「指定管理者制度の運用に関する手引き」に基づき、協定書に定めた利用者満足度調査を実施した。	<p>■ 県民ホール本館 10 月 1 日～10 月 31 日 来館者：483 件 施設利用者：33 件 HP 閲覧者：5 件</p> <p>■ 神奈川芸術劇場 11 月 1 日～11 月 30 日 来館者：828 件 施設利用者：5 件 HP 閲覧者：3 件</p> <p>■ 県立音楽堂 12 月 1 日～12 月 31 日 来館者：575 件 施設利用者：7 件 HP 閲覧者：1 件</p>	各施設に対する入場者・利用者の意見・要望等を把握することができ、今後の施設運営や事業企画等の参考情報とすることができた。 指定管理者による施設の管理運営について、直接利用者の声を把握することが出来た。
	■ 神奈川近代文学館 秋の特別展「柳田國男展」開催期間に来館者とインターネット閲覧者を対象としたアンケートを実施した。	■ 神奈川近代文学館 来館者アンケート（実施期間 10 月 3 日～11 月 23 日）回答者 405 件 Web アンケート（実施期間 10 月 3 日～11 月 23 日）回答者 19 件	総合満足度調査においては、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた割合は 95.8% だった。 来館者アンケートでは、回答者の年齢層や性別、来館までの交通手段等の項目から、来館者の特徴も把握することができた。
・ 施設運営会議等による施設運営や実施事業の点検・検証	【内容】 「神奈川県立県民ホール指定管理業務実績評価委員会」を設置し、公募委員を含む 5 名により指定管理者が行う自主事業公演のモニタリングを行い、その内容について年 1 回会議を開催する。	・ モニタリング実施公演数：16 回 ・ 参加人数：（延べ）29 人 ・ 外部評価委員会：27 年 7 月 14 日実施	公募委員を含めた、外部有識者によるモニタリングを行い、意見をいただくことで、県のモニタリングとは異なる視点から指定管理業務の運営について、年に 1 度開催する委員会で評価を行うことで、指定管理業務の運営を改善してゆくよう意見をいただいた。

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 施設運営全般 についてのモニ タリングの実施	行政によるモニタリング (月報、事業報告書、モニ タリング結果報告、指定管 理業務総括調書) 【内容】 県立音楽堂の指定管理 者に対して、県行政管理課 が定める「指定管理者制 度の運用に関する指針」及 び「指定管理者制度の運 用に関する手引き」に基 づくモニタリングを実施 した。	・ 月報によるモニタリ ング ・ 主催公演のモニタリ ング ・ 事業報告書によるモ ニタリング ・ モニタリング結果報 告書の作成 (年 1 回)	指定管理者による施 設の管理運営が適切 に行われているか確認 を行うとともに、施設 や設備の故障・事故等 の報告により、県が施 設の情報をきちんと把 握することが出来た。
	■ 神奈川近代文学館 月例報告書による施設 利用状況や事業内容の 確認のほか、定期的に 施設の現場確認を行っ ている。	月例報告書の確認：毎 月 現場確認：展示ごと	月例報告書の確認や 現場確認の結果、指 導や改善勧告はなかつ た。

(3) 情報通信技術の活用

【施策の方向】

- 文化芸術に関する情報や資料などを容易に入手できるよう、ホームページや電子メールを活用した情報提供を行います。また、県立文化施設が保管・保有する公開資料を容易に利用できるよう、検索や閲覧に情報通信技術を活用するよう取り組みます。
- 県立文化施設の利用手続において、窓口を訪れる負担などを軽減するため、情報通信技術を活用し、自宅から利用予約が可能となるよう、利用者サービスの向上に取り組みます。
- 県立文化施設等に保存・保管されている文化芸術にかかわる資料について、デジタル化、データベース化を図り、利用者の利便性を高める取組みを推進します。

ア 情報の発信

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ ホームページ、フェイスブック、ポータルサイト、電子メールを活用した文化芸術情報の提供	※基本的な施策 1 - (2) - アの取組み「広報誌、ホームページによる普及啓発の実施」と同様であるため、記載省略。		
	※基本的な施策 1 - (2) - エの取組み「ホームページ、フェイスブック、ポータルサイトによる公演情報、文化芸術活動のための情報」と同様のため、記載省略。		
・ 保存資料等の検索・閲覧等に関する情報通信技術の活用	■ 神奈川近代文学館 ホームページのリニューアルや SNS を活用した。また、谷崎潤一郎展ではコミックとのコラボレーションを行い、若年層を取り込んだ。	ホームページアクセス数 211,693 件 うち、蔵書検索アクセス数 62,095 件	谷崎潤一郎展でのコミックとのコラボレーションなど、若い世代への働きかけや漱石展の好評などにより、ホームページアクセス件数は前年度比約 2 割増の 21 万件超を記録した。

イ 利便性の向上

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・施設予約システムの運用	原則 24 時間どこからでもインターネットを通じて、県内公共施設の空き状況の照会や予約申込を行えるようにすることで、県民の利便性を向上させるとともに、職員側の施設予約管理に関する事務処理の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用件数：905,368 件（県のみ） （内訳） ・抽選申込数 759,336 件 内希望調整申込件数 4,117 件 ・予約申込数 146,032 件 	施設予約システムにより、県内外の利用者が利用手続のために窓口を訪れるなどの負担を軽減することができた。 また、利用手続の電子化により、事務処理の効率化が図られ、行政運営の簡素化に貢献した。

ウ 文化芸術に係る資料、作品、情報等の保存

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・県立文化施設等における収蔵資料等のデジタル化、データベース化の推進	■神奈川近代文学館 所蔵資料のデータベース化は、利用者の利便向上のために重要であるため、神奈川近代文学館では当年度もインターネット公開を進めた。	2014 年度受入データ（原稿、自筆資料、書簡など）3,683 件を加え、累計約 19 万 700 点のデータがインターネット検索可能となった。 特別資料検索利用登録者 129 人（累計 1,754 人）	ホームページにおけるデータベースの充実により、日時、場所を問わず貴重な文学資料に触れる機会を提供できた。

（４）文化芸術活動に対する支援の促進

【施策の方向】

- 文化芸術の振興に寄与する寄附税制等の周知などにより、個人や企業からの寄附や支援が活発に行われるよう取り組みます。

・文化芸術活動に対する個人や企業等からの寄附や支援の促進

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・寄附税制等に関する周知	財団HPに掲載するほか、賛助会員やその他法人・団体への寄付依頼時にパンフレットにて周知した。	・賛助会員数（H27 末）：52 社 6 名	賛助会員や寄付依頼先への周知のほか、HP掲載により幅広く周知した。
	「神奈川文学館友の会」は、近代文学館を積極的に利用していただく方に向けて、入館料無料、行事や刊行物の会員価格割引、会員限定行事の開催など、さまざまな事業を行っている。	・会員数：1,002 人	会員数は前年度とほぼ同数で 2 年連続で 1,000 人を超えた。
	「近代文学館を支援する会」は、法人、団体、事業主または個人を対象に近代文学館の広報や支援に協力いただくとともに寄付による税額控除を行っている。	・会員数：113 人（139 口）	会員による支援によって、近代文学館の事業が充実するとともに、広報活動を幅広く行うことができた。

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 文化芸術団体への寄附の促進	((公財) 神奈川芸術文化財団のホームページにて寄付金に対する税優遇について周知を行った。)		
・ メセナ企業等に関する情報の提供	((公財) 神奈川芸術文化財団が (公社) 企業メセナ協議会に会員として参加し情報収集を行っている。)		
・ メセナ企業と芸術家とを結びつける方策の検討			

(5) 顕彰の実施

【施策の方向】

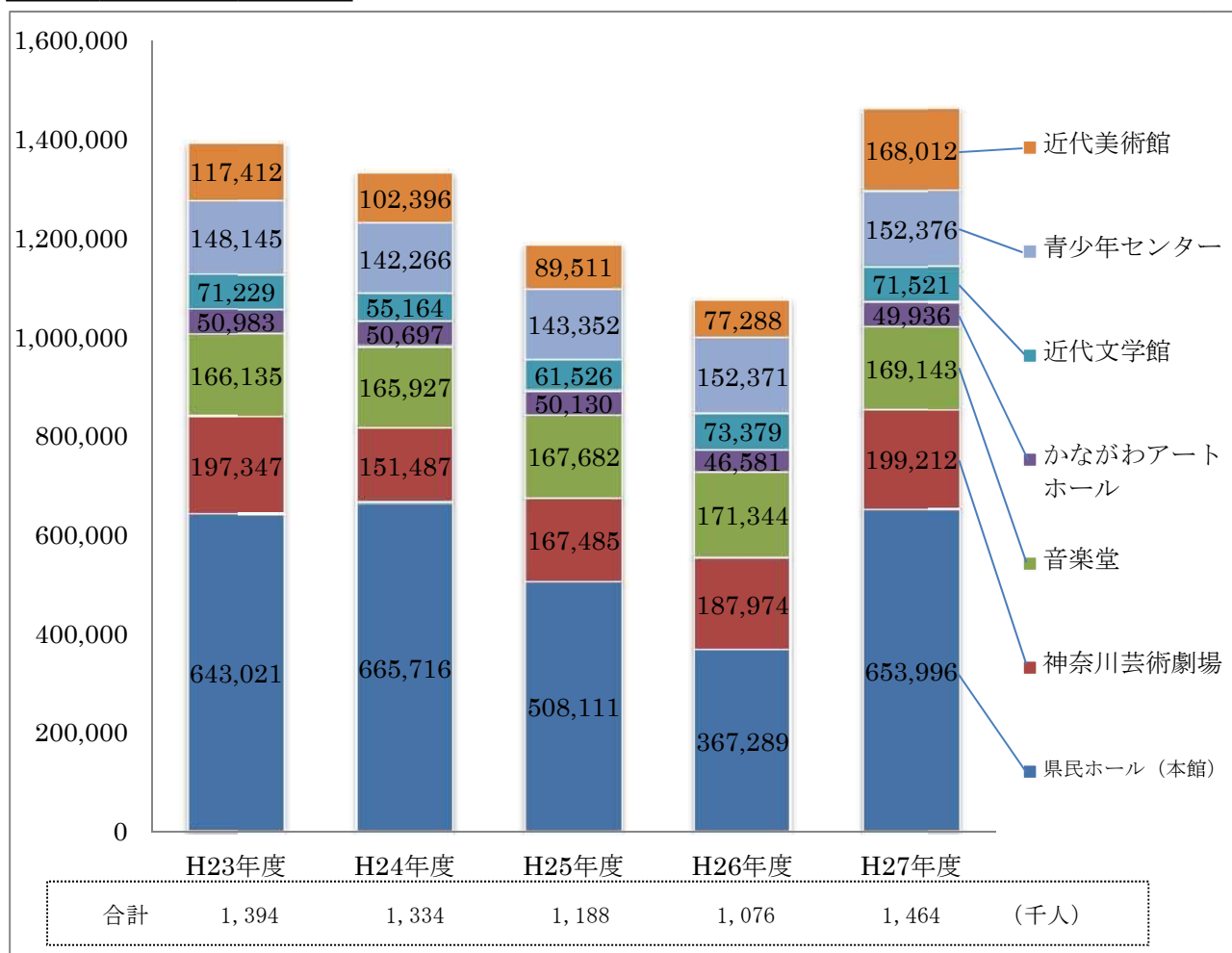
- 文化芸術活動で顕著な成果を収めた人や団体、また、文化芸術の振興に寄与した人や団体の顕彰を実施します。

・ 顕彰の実施

取組みの名称	取組みの内容	平成 27 年度実績	実施の効果
・ 神奈川文化賞 ・ 未来賞等による顕彰の実施	※基本的な施策 1 - (3) - アの取組み「神奈川文化賞・未来賞等による顕彰の実施」と同様のため、記載省略。		

IV 進行管理のための参考指標

1 県立文化施設*利用者数



* 「県立文化施設」：県民ホール（本館）・神奈川芸術劇場・音楽堂・かながわアートホール・近代文学館・青少年センター・近代美術館

2 文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度（全県）

文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識は高いが、満足度は低い。

質問項目	生活重要度		生活満足度	
	重要	重要でない	満たされている	満たされていない
文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること	47.6%	14.0%	19.4%	23.1%
自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること	66.6%	5.4%	13.9%	35.0%
自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくりが行われること	63.4%	5.9%	19.2%	16.5%

（平成26年度県民ニーズ調査）

3 文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度（地域別）

文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識は高いが、満足度は低い。

重要性に関する意識

(%)

満足度

(%)

文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること

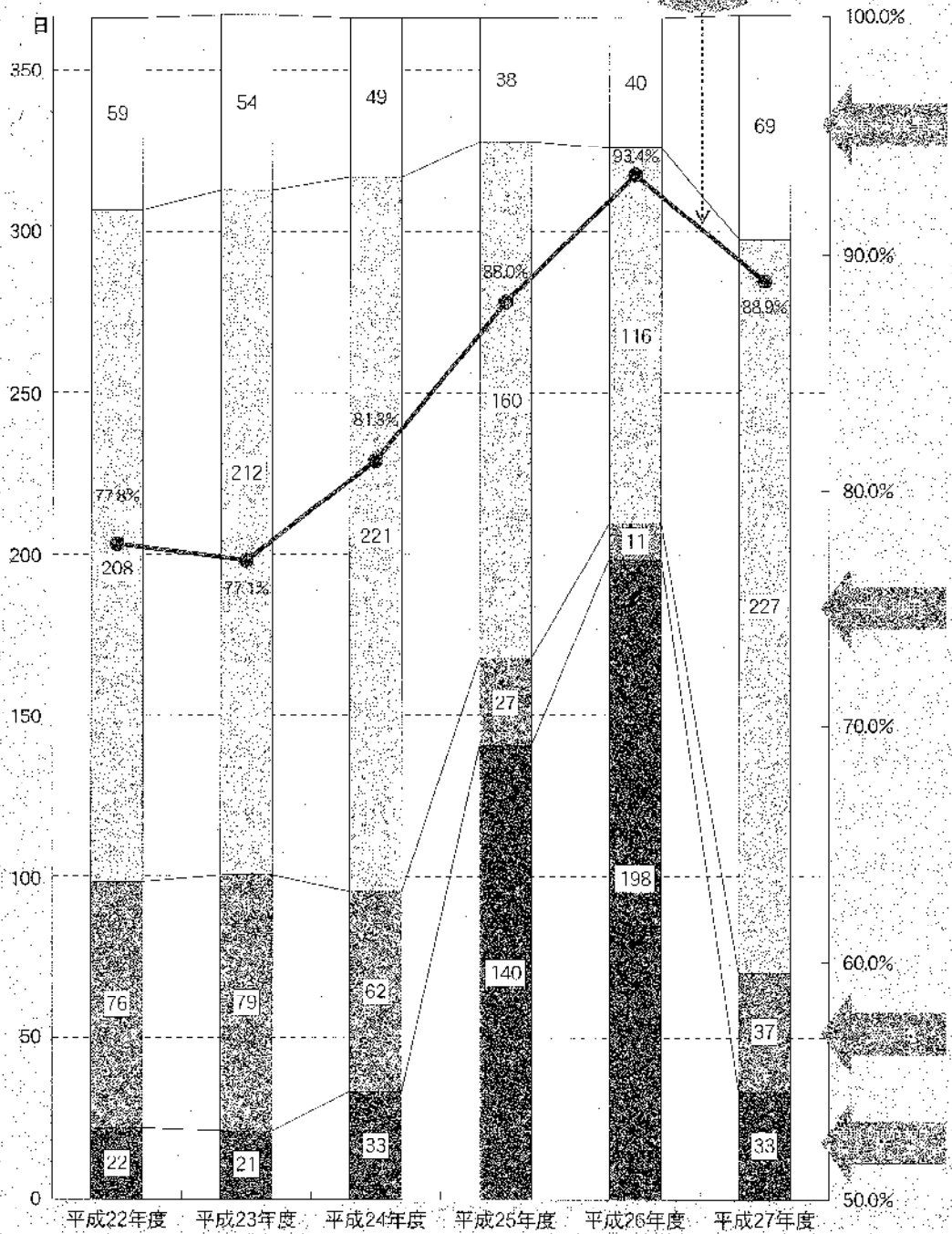
	全 体	非 常 に 重 要 で あ る	か な り 重 要 で あ る	ど ち ら と も い え な い	さ ほ ど 重 要 で な い	ま つ た く 重 要 で は な い	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数								
下段：%								
全体	1403	159	509	455	174	23	38	45
	100.0	11.3	36.3	32.4	12.4	1.6	2.7	3.2
居住地域別								
横浜	530	63	192	173	68	8	12	14
	100.0	11.9	36.2	32.6	12.8	1.5	2.3	2.6
川崎	196	25	76	56	30	1	5	3
	100.0	12.8	38.8	28.6	15.3	0.5	2.6	1.5
相模原	109	8	40	30	16	3	4	8
	100.0	7.3	36.7	27.5	14.7	2.8	3.7	7.3
横須賀三浦	119	12	40	38	19	3	2	5
	100.0	10.1	33.6	31.9	16.0	2.5	1.7	4.2
県央	134	10	56	42	14	2	7	3
	100.0	7.5	41.8	31.3	10.4	1.5	5.2	2.2
湘南	200	27	67	76	20	2	5	3
	100.0	13.5	33.5	38.0	10.0	1.0	2.5	1.5
県西	57	6	15	27	5	1	1	2
	100.0	10.5	26.3	47.4	8.8	1.8	1.8	3.5
無回答	58	8	23	13	2	3	2	7
	100.0	13.8	39.7	22.4	3.4	5.2	3.4	12.1
性別								
全体	1403	159	509	455	174	23	38	45
	100.0	11.3	36.3	32.4	12.4	1.6	2.7	3.2
男性	634	67	214	219	96	15	12	11
	100.0	10.6	33.8	34.5	15.1	2.4	1.9	1.7
女性	711	85	271	222	76	6	25	26
	100.0	12.0	38.1	31.2	10.7	0.8	3.5	3.7
無回答	58	7	24	14	2	2	1	8
	100.0	12.1	41.4	24.1	3.4	3.4	1.7	13.8
年代別								
全体	1403	159	509	455	174	23	38	45
	100.0	11.3	36.3	32.4	12.4	1.6	2.7	3.2
20～29歳	78	14	21	25	10	3	3	2
	100.0	17.9	26.9	32.1	12.8	3.8	3.8	2.6
30～39歳	193	27	64	60	32	5	4	1
	100.0	14.0	33.2	31.1	16.6	2.6	2.1	0.5
40～49歳	286	35	96	101	41	3	8	2
	100.0	12.2	33.6	35.3	14.3	1.0	2.8	0.7
50～59歳	224	28	78	77	31	6	2	2
	100.0	12.5	34.8	34.4	13.8	2.7	0.9	0.9
60～69歳	274	25	108	98	23	2	9	9
	100.0	9.1	39.4	35.8	8.4	0.7	3.3	3.3
70歳以上	291	23	119	80	35	1	11	22
	100.0	7.9	40.9	27.5	12.0	0.3	3.8	7.6
無回答	57	7	23	14	2	3	1	7
	100.0	12.3	40.4	24.6	3.5	5.3	1.8	12.3

文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること

	全 体	十 分 満 た さ れ て い る	か な り 満 た さ れ て い る	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 満 た さ れ て い な い	ほ と ん ど 満 た さ れ て い ない	わ か ら な い	無 回 答
上段：実数								
下段：%								
全体	1403	24	248	602	245	78	141	65
	100.0	1.7	17.7	42.9	17.5	5.6	10.0	4.6
居住地域別								
横浜	530	11	101	228	95	26	49	20
	100.0	2.1	19.1	43.0	17.9	4.9	9.2	3.8
川崎	196	4	41	88	31	8	16	8
	100.0	2.0	20.9	44.9	15.8	4.1	8.2	4.1
相模原	109	3	17	44	20	2	16	7
	100.0	2.8	15.6	40.4	18.3	1.8	14.7	6.4
横須賀三浦	119	1	18	52	26	6	10	6
	100.0	0.8	15.1	43.7	21.8	5.0	8.4	5.0
県央	134	-	24	50	25	14	17	4
	100.0	-	17.9	37.3	18.7	10.4	12.7	3.0
湘南	200	5	29	92	29	13	25	7
	100.0	2.5	14.5	46.0	14.5	6.5	12.5	3.5
県西	57	-	5	28	13	5	4	2
	100.0	-	8.8	49.1	22.8	8.8	7.0	3.5
無回答	58	-	13	20	6	4	4	11
	100.0	-	22.4	34.5	10.3	6.9	6.9	19.0
性別								
全体	1403	24	248	602	245	78	141	65
	100.0	1.7	17.7	42.9	17.5	5.6	10.0	4.6
男性	634	10	104	263	141	41	59	16
	100.0	1.6	16.4	41.5	22.2	6.5	9.3	2.5
女性	711	14	131	318	97	34	79	38
	100.0	2.0	18.4	44.7	13.6	4.8	11.1	5.3
無回答	58	-	13	21	7	3	3	11
	100.0	-	22.4	36.2	12.1	5.2	5.2	19.0
年代別								
全体	1403	24	248	602	245	78	141	65
	100.0	1.7	17.7	42.9	17.5	5.6	10.0	4.6
20～29歳	78	1	16	34	10	3	12	2
	100.0	1.3	20.5	43.6	12.8	3.8	15.4	2.6
30～39歳	193	6	39	91	23	6	26	2
	100.0	3.1	20.2	47.2	11.9	3.1	13.5	1.0
40～49歳	286	7	44	133	50	17	29	6
	100.0	2.4	15.4	46.5	17.5	5.9	10.1	2.1
50～59歳	224	2	37	111	31	16	25	2
	100.0	0.9	16.5	49.6	13.8	7.1	11.2	0.9
60～69歳	274	1	51	107	63	17	21	14
	100.0	0.4	18.6	39.1	23.0	6.2	7.7	5.1
70歳以上	291	7	48	106	61	16	24	29
	100.0	2.4	16.5	36.4	21.0	5.5	8.2	10.0
無回答	57	-	13	20	7	3	4	10
	100.0	-	22.8	35.1	12.3	5.3	7.0	17.5

(平成26年度県民ニーズ調査)

4 県立文化施設の利用率 県民ホール 大ホール



利用可能日数	343日	345日	332日	225日	167日	333日
実利用日数 (自主・共催含む)	267日	266日	270日	198日	156日	296日
実利用日数 (一般のみ)	208日	212日	221日	160日	116日	227日

◆平成25年12月2日から平成26年9月30日までは、改修工事のため休館。

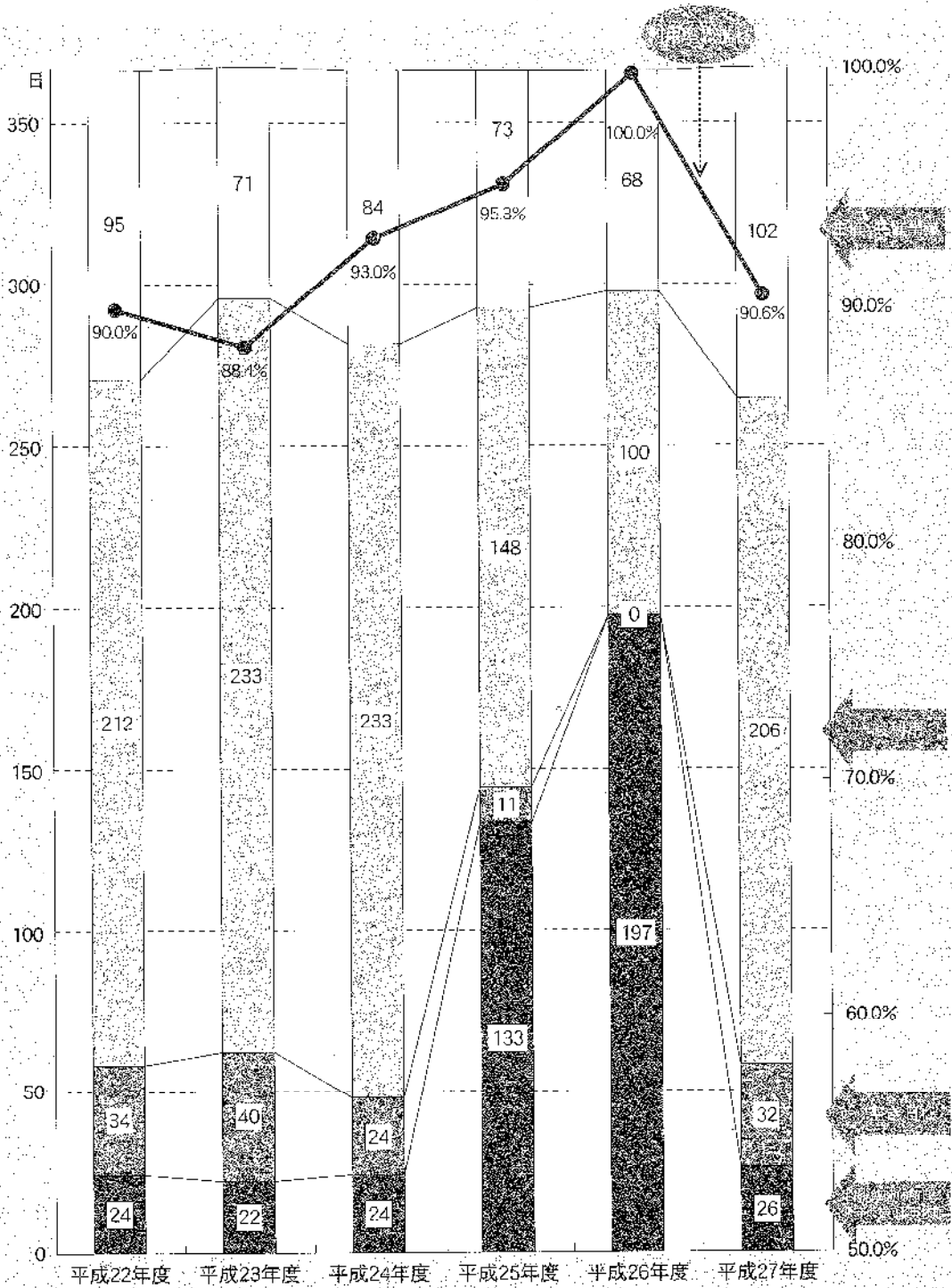
<グラフの見方>

*棒グラフ：利用の内訳日数 <目盛はグラフの左側>

*折れ線グラフ：利用率 <目盛はグラフの右側>

(「平成27年度 県民ホール年報」)

5 県立文化施設の利用率 県民ホール 小ホール



利用可能日数	341日	344日	341日	232日	168日	340日
実利用日数 (自主・共催含む)	307日	304日	317日	221日	168日	308日
実利用日数 (一般のみ)	212日	233日	233日	148日	100日	206日

◆平成25年12月2日から平成26年9月30日までは、改修工事のため休館。

<グラフの見方>

*棒グラフ：利用の内訳日数 <目盛はグラフの左側>

*折れ線グラフ：利用率 <目盛はグラフの右側>

(「平成27年度 県民ホール年報」)

6 県立文化施設の利用率 神奈川芸術劇場



平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度

利用可能日数	71日	215日	217日	215日	220日	217日
実利用日数（自主・提携含む）	51日	260日	222日	237日	263日	259日
実利用日数（一般のみ）	0日	88日	71日	87日	85日	81日
利用率	68.9%	82.5%	70.0%	75.2%	82.2%	81.7%



平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度

利用可能日数	113日	336日	336日	333日	321日	329日
実利用日数（自主・提携含む）	97日	245日	264日	321日	281日	286日
実利用日数（一般のみ）	0日	53日	61日	11日	59日	51日
利用率	85.8%	72.9%	78.6%	93.6%	84.9%	84.4%



平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度

利用可能日数	125日	352日	401日	352日	357日	356日
実利用日数（自主・提携含む）	77日	262日	295日	256日	321日	296日
実利用日数（一般のみ）	4日	55日	25日	19日	60日	19日
利用率	61.1%	74.4%	84.0%	72.7%	91.5%	83.1%



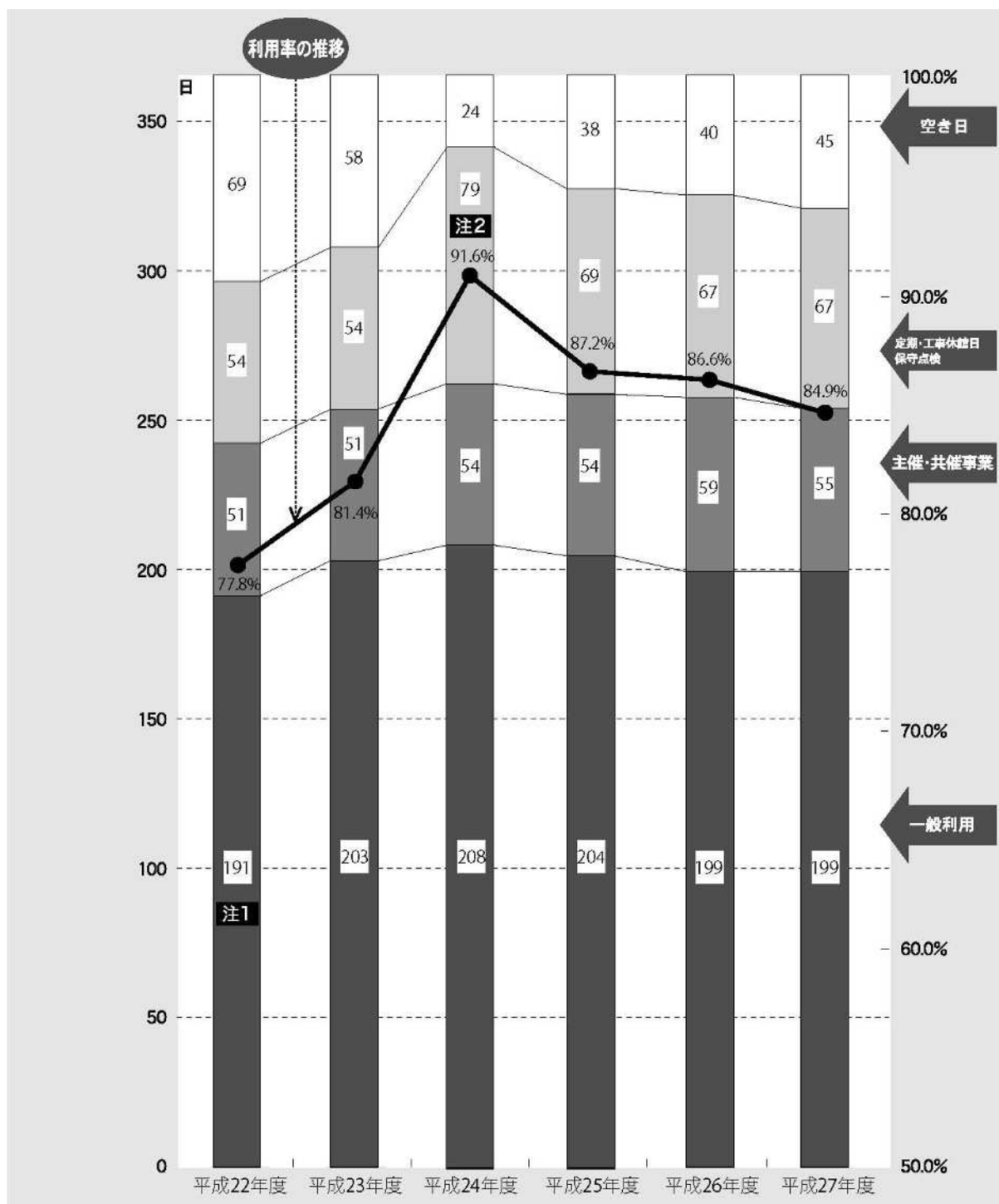
平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度

利用可能日数	124日	352日	357日	353日	354日	357日
実利用日数（自主・提携含む）	110日	223日	234日	261日	306日	294日
実利用日数（一般のみ）	2日	58日	40日	11日	39日	5日
利用率	88.7%	63.0%	66.3%	73.9%	86.4%	82.4%

※平成22年度は開館年度として自主事業中心の利用となっている。

（「平成27年度 県民ホール年報」）

7 県立文化施設の利用率 音楽堂



利用可能日数	311日	312日	◆286日	296日	298日	299日
実利用日数 (自主・共催含む)	242日	254日	262日	258日	258日	254日
実利用日数 (一般のみ)	191日	203日	208日	204日	199日	199日

注1・平成22年度は、東日本大震災の影響で3月の利用予定が7日公演中止。

注2・◆平成24年度より年度当初に保守点検日数を予め定め、利用率の算定にあたっては利用可能日数から控除しました。
平成24年度は、舞台音響設備三点吊りマイク装置更新工事のため11日間利用不可。

<グラフの見方>*棒グラフ：利用の内訳日数はグラフの左側の目盛 *折れ線グラフ：利用率は右側の目盛

(「平成27年度 音楽堂年報」)

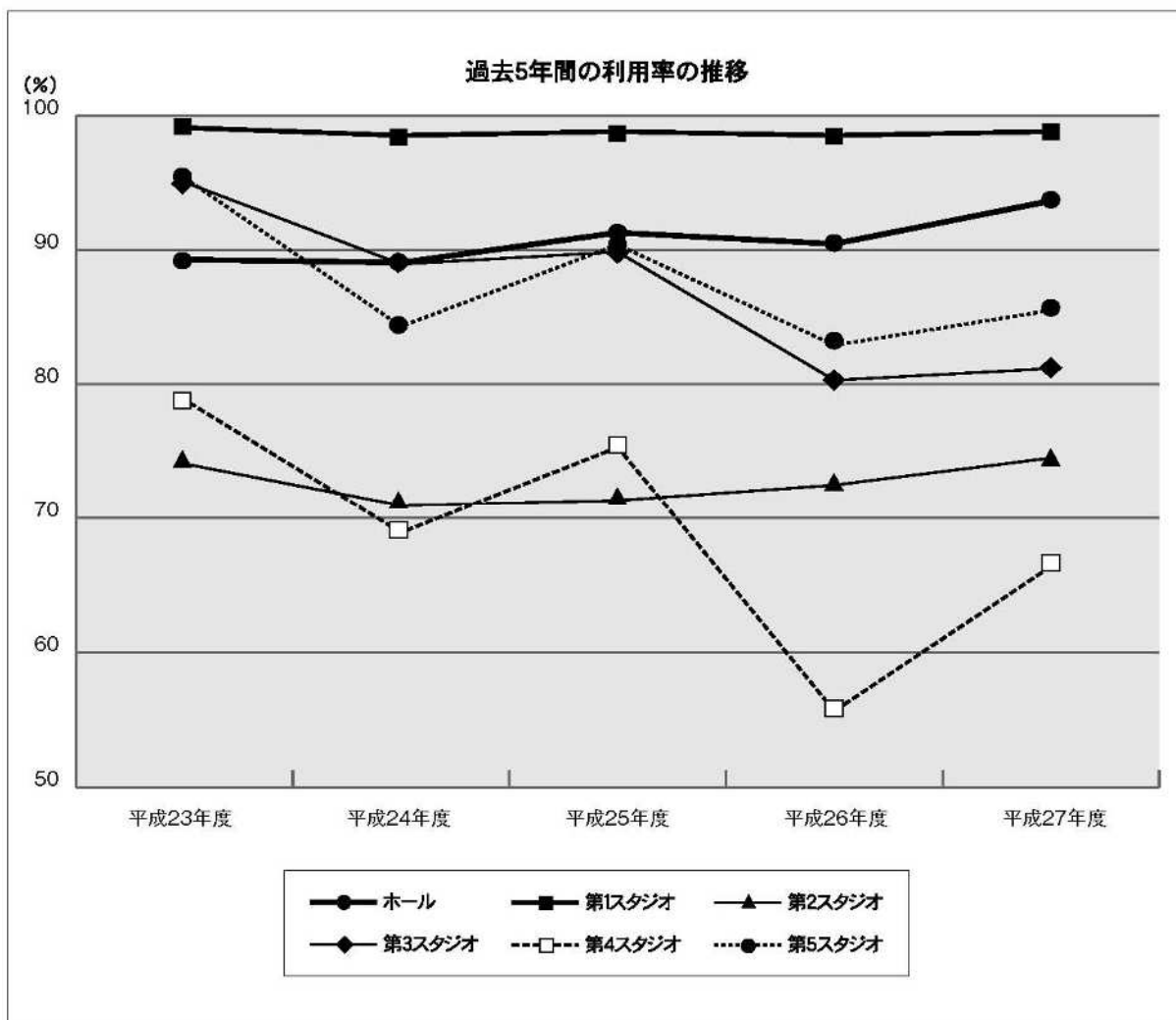
8 県立文化施設の利用率 かながわアートホール

利用日数・利用率

(日・%)

	開館日数	利用施設の内訳																							
		ホール				第1スタジオ				第2スタジオ				第3スタジオ				第4スタジオ				第5スタジオ			
		利用可能日	利用日数	利用率	空き日	利用可能日	利用日数	利用率	空き日	利用可能日	利用日数	利用率	空き日	利用可能日	利用日数	利用率	空き日	利用可能日	利用日数	利用率	空き日	利用可能日	利用日数	利用率	空き日
平成23年度	357	336	300	89	36	345	342	99	3	343	254	74	89	345	328	95	17	345	272	79	73	345	329	95	16
平成24年度	356	329	293	89	36	344	339	99	5	344	244	71	100	344	306	89	38	344	237	69	107	344	290	84	54
平成25年度	356	322	294	91	28	344	340	99	4	345	246	71	99	345	310	90	35	344	259	75	85	344	311	90	33
平成26年度	356	325	294	90	31	345	340	99	5	345	250	72	95	345	277	80	68	345	192	56	153	345	286	83	59
平成27年度	357	332	311	94	21	345	341	99	4	345	257	74	88	345	280	81	65	345	229	66	116	345	295	86	50

*開館日数の数え方 1年の日数から休館日(年末年始(12月28日～1月4日)他)を除いたもの
 *利用可能日の数え方 ホール…開館日数から利用対象外日数(施設点検日等)を除いたもの
 *利用率=利用日数/利用可能日数
 *平成24年度より実状を踏まえ、施設点検日数等を増やしました。



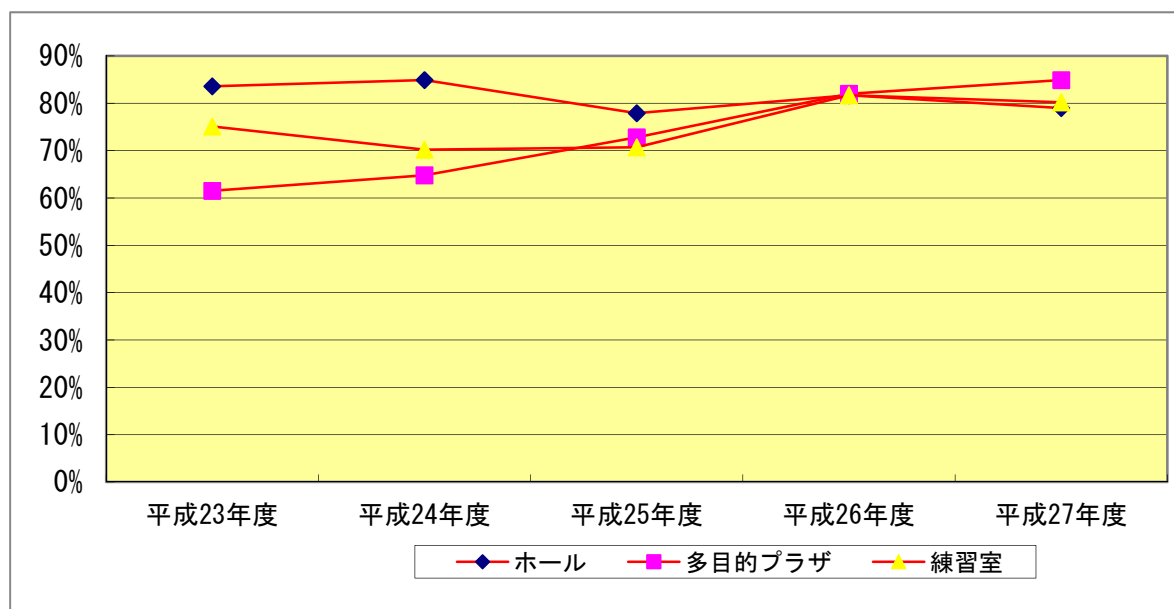
(「平成27年度 かながわアートホール年報」)

9 県立文化施設の利用率 青少年センター

利用日数・利用率

	利用施設の内訳								
	ホール			多目的プラザ			練習室		
	利用 可能 日数	利用 日数	利用 率	利用 可能 日数	利用 日数	利用 率	利用 可能 日数	利用 日数	利用 率
平成 23 年度	280	234	83.6%	325	200	61.5%	321	241	75.1%
平成 24 年度	292	248	84.9%	324	210	64.8%	326	229	70.2%
平成 25 年度	290	226	77.9%	320	233	72.8%	317	224	70.7%
平成 26 年度	284	232	81.7%	323	265	82.0%	333	272	81.7%
平成 27 年度	290	229	79.0%	317	269	84.9%	324	260	80.2%

過去 5 年間の利用率の推移



10 県立近代美術館の作品蒐集管理状況

購入・寄贈状況

		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度*	平成 26 年度
購入・寄贈状況 (作品)	購入件数	6 点	6 点	5 件	4 件
	新規寄贈件数	194 点	727 点	788 件	1,079 件
	管理換件数			3 件	
	取得総件数	200 点	733 点	797 件	1,083 件
	収蔵総件数	12,103 点	12,836 点	13,013 件	14,090 件
購入・寄贈状況 (資料)	新規寄贈件数				63 件

* 平成 25 年度より、作品個々の点数から作品総体の件数へ計上方法を変更している。

寄託状況

		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度*	平成 26 年度
寄託状況 (作品)	解除件数	10 点	223 点	3 件	1 件
	新規寄託件数	241 点	19 点	5 件	1 件
	合計	468 点	264 点	69 件	69 件
寄託状況 (資料)					118 件

* 平成 25 年度より、作品個々の点数から作品総体の件数へ計上方法を変更している。

11 過去1年間に美術鑑賞等の文化芸術の鑑賞・活動を行ったことのある人の割合

	標本数	10歳以上 推定人口 (千人)	総数	スポーツ 観覧 (テレビ・ DVDなど は除く)	美術鑑賞 (テレビ・ DVDなど は除く)	演芸・演劇 ・舞踊鑑賞 (テレビ・ DVDなど は除く)	映画鑑賞 (テレビ・ ビデオ・ DVDなど は除く)	音楽会など による クラシック 音楽鑑賞	音楽会など による ポピュラー 音楽・歌謡 曲鑑賞	C D ・ テープ・ レコード などによる 音楽鑑賞	DVD ・ ビデオなど による映画 鑑賞(テレ ビからの録 画は除く)	楽器の演奏
全国	178,444	114,061	84.8	18.6	16.5	11.7	35.1	8.6	12.4	47.5	40.5	9.6
北海道	4,848	4,883	85.3	21.5	13.3	9.6	30.1	9.0	12.9	49.0	41.4	9.0
青森県	3,535	1,214	75.0	15.5	16.3	8.1	23.7	6.7	8.1	39.1	36.1	7.2
岩手県	3,002	1,175	79.4	17.6	10.6	11.6	24.1	7.6	12.5	40.3	34.5	8.8
宮城県	2,810	2,085	85.5	24.6	12.3	10.4	34.1	7.9	13.2	50.4	42.6	9.9
秋田県	3,682	965	80.6	18.6	12.9	9.8	22.6	6.0	9.1	38.8	32.9	7.3
山形県	3,986	1,035	81.7	16.7	11.8	8.9	32.5	6.3	9.6	40.7	36.9	7.5
福島県	3,127	1,780	82.4	13.9	11.2	7.3	23.5	7.1	9.0	45.0	36.8	7.5
茨城県	3,854	2,645	83.0	16.6	12.2	8.4	34.7	5.6	9.9	45.1	39.5	8.4
栃木県	3,682	1,785	82.8	15.0	11.9	9.3	35.0	6.8	10.0	43.9	39.2	8.3
群馬県	3,743	1,780	84.5	15.5	13.2	9.3	35.4	7.9	12.2	45.5	37.9	9.1
埼玉県	5,613	6,477	87.9	18.3	16.8	11.9	39.6	9.2	12.8	50.6	42.8	10.5
千葉県	5,005	5,584	86.2	18.2	17.8	12.5	38.5	8.7	12.1	48.9	41.4	10.2
東京都	5,125	11,998	88.5	20.5	23.7	18.3	43.3	12.3	15.8	56.2	48.2	11.9
神奈川県	5,603	8,127	88.7	18.2	21.4	13.8	42.2	10.2	14.5	54.0	43.6	11.0
新潟県	3,829	2,115	80.4	15.9	13.0	8.2	28.0	6.1	9.2	39.1	34.3	6.8
富山県	3,734	967	84.1	17.9	19.1	11.1	36.1	7.7	13.1	44.4	38.5	9.3
石川県	3,497	1,028	84.6	15.0	18.7	10.6	37.7	9.9	11.4	44.5	38.9	8.1
福井県	3,927	709	82.0	15.1	14.3	8.9	33.3	7.5	11.5	42.0	37.8	7.8
山梨県	3,362	767	84.5	18.9	15.7	10.2	30.5	8.4	12.7	44.6	39.8	10.4
長野県	3,660	1,907	84.2	15.8	17.8	9.3	28.2	10.6	13.2	44.6	37.3	10.6
岐阜県	3,651	1,847	83.8	15.9	13.7	10.7	33.4	7.7	10.8	43.4	38.2	8.3
静岡県	3,741	3,343	83.2	17.6	15.5	10.0	30.8	8.0	11.8	43.2	37.7	8.5
愛知県	5,788	6,596	86.6	21.7	16.7	13.1	37.8	9.1	13.5	49.7	42.0	10.8
三重県	3,548	1,646	84.2	16.9	12.5	9.7	33.5	6.3	13.1	46.8	39.6	8.2
滋賀県	3,576	1,251	86.6	15.6	15.4	10.7	37.1	7.6	11.8	48.8	41.7	11.2
京都府	3,406	2,359	84.9	16.5	20.1	14.6	36.4	9.9	12.8	48.4	39.2	9.9
大阪府	5,364	7,936	85.9	18.8	15.0	12.4	39.1	7.6	12.8	48.3	42.7	9.4
兵庫県	4,905	4,979	85.5	20.2	18.6	13.1	37.2	10.0	13.8	47.1	38.3	10.1
奈良県	3,609	1,252	87.1	15.8	18.8	13.4	38.0	8.7	14.1	50.2	40.9	10.4
和歌山県	3,279	890	82.0	14.1	12.0	9.4	30.6	6.1	10.2	42.0	34.0	8.1
鳥取県	3,603	516	80.6	15.7	16.4	8.3	22.6	7.5	9.8	40.7	34.6	8.1
島根県	3,684	629	79.5	17.3	16.8	10.3	23.4	8.6	10.4	38.1	31.3	9.2
岡山県	3,610	1,716	82.5	16.6	15.8	9.3	28.5	7.6	10.9	44.6	36.7	9.3
広島県	3,325	2,524	86.7	27.6	18.4	10.1	34.5	8.8	13.8	47.5	38.9	10.1
山口県	3,272	1,276	84.5	21.9	16.4	9.7	29.4	7.8	11.3	46.7	37.1	9.4
徳島県	3,396	690	79.1	15.3	11.7	9.4	27.1	5.8	9.0	37.2	32.9	7.1
香川県	3,327	877	82.5	13.8	13.7	9.2	29.3	7.4	10.8	42.3	36.4	8.5
愛媛県	3,227	1,263	80.7	14.0	14.4	8.1	27.4	6.4	9.4	42.1	36.0	8.2
高知県	2,783	671	75.7	11.5	13.8	7.1	24.4	5.9	9.2	34.9	34.7	7.4
福岡県	4,487	4,478	83.5	21.7	15.6	11.2	34.5	7.9	11.5	45.9	40.5	7.9
佐賀県	3,658	739	80.8	19.5	13.3	9.8	26.2	7.2	10.8	41.9	35.2	7.9
長崎県	3,508	1,239	79.4	14.3	12.8	8.9	24.3	7.6	9.9	39.6	34.2	6.8
熊本県	3,561	1,590	79.3	17.2	13.4	8.2	29.4	5.1	10.1	38.9	36.4	8.2
大分県	3,163	1,050	81.1	16.7	15.6	7.9	25.4	5.5	9.5	40.3	34.4	7.6
宮崎県	3,040	992	78.7	16.5	9.9	7.2	22.5	6.3	9.5	38.3	33.3	8.0
鹿児島県	3,155	1,485	80.3	16.8	11.7	8.9	26.0	6.3	9.6	41.9	36.9	8.2
沖縄県	3,154	1,203	79.7	16.7	10.4	9.0	31.1	4.7	7.2	43.5	40.7	9.6

	邦楽 (民謡、 日本古来の 音楽を含む)	コーラス・ 声楽	邦舞・ おどり	洋舞・ 社交ダンス	書道	華道	茶道	和裁・洋裁	編み物・ 手芸	趣味として の料理・ 菓子作り	園芸・庭い じり・ガー デニング	日曜大工
全国	1.7	2.8	1.6	1.7	4.1	2.0	1.5	6.4	10.1	17.2	26.6	8.9
北海道	1.9	2.1	1.4	1.7	3.4	1.5	1.1	6.9	12.3	17.7	26.2	7.9
青森県	1.4	2.0	1.9	1.1	3.1	2.1	1.8	6.2	9.6	14.2	25.1	8.6
岩手県	1.9	3.0	3.6	0.9	3.2	1.9	1.7	6.7	9.8	16.8	27.9	9.1
宮城県	1.9	2.8	1.7	1.4	4.1	1.1	1.0	7.1	11.6	18.6	28.9	10.1
秋田県	1.8	1.7	1.9	0.8	2.9	2.1	1.6	6.8	9.7	15.6	25.8	9.6
山形県	2.0	2.0	2.0	1.2	3.8	2.2	1.5	5.6	10.5	16.6	28.1	9.1
福島県	1.7	2.3	1.0	1.1	3.9	1.8	1.0	5.7	8.8	14.9	28.1	9.7
茨城県	1.3	2.1	1.7	1.8	4.5	2.0	0.8	6.7	8.9	18.1	29.7	10.7
栃木県	1.1	2.3	1.1	1.7	4.6	1.7	1.3	5.8	8.9	16.1	30.5	9.4
群馬県	1.7	2.5	1.9	1.9	4.1	1.6	1.0	6.2	9.7	17.0	31.1	9.9
埼玉県	1.9	3.1	1.4	2.2	4.4	1.7	1.3	6.4	10.5	17.4	27.5	9.7
千葉県	1.8	3.3	1.4	2.2	3.9	1.6	1.3	6.3	10.5	17.8	29.9	9.1
東京都	2.1	4.1	1.5	2.6	4.0	1.9	2.1	7.0	10.7	19.2	23.3	8.0
神奈川県	1.6	3.4	1.4	2.7	3.9	1.8	1.3	7.4	11.4	19.2	26.8	9.0
新潟県	1.8	1.6	1.6	1.5	3.6	1.7	1.1	5.5	8.5	13.5	26.0	8.2
富山県	2.3	2.2	2.1	1.1	4.9	2.7	2.1	5.7	9.3	16.6	27.3	8.4
石川県	1.7	1.8	1.7	1.3	3.8	2.8	2.2	5.8	9.3	16.0	26.2	8.2
福井県	1.3	1.8	2.0	1.4	3.9	2.4	2.0	5.0	8.8	15.9	24.5	8.5
山梨県	1.7	3.1	2.1	1.6	5.8	2.0	1.6	6.6	11.1	17.0	30.7	10.4
長野県	1.9	3.9	1.6	1.3	4.3	1.6	1.7	6.4	10.9	19.3	31.6	9.9
岐阜県	1.6	2.5	1.7	1.4	4.7	2.3	2.0	5.7	9.2	17.6	28.6	9.5
静岡県	1.7	2.4	1.9	1.1	4.5	2.1	1.2	6.5	9.3	16.8	27.5	8.8
愛知県	1.7	2.6	1.4	1.4	4.3	1.9	1.6	6.6	10.2	16.7	26.2	7.9
三重県	1.4	2.4	2.0	1.1	4.7	2.3	1.6	6.1	8.7	17.2	28.5	9.5
滋賀県	2.0	2.6	1.0	1.3	4.3	2.4	2.1	6.7	9.9	19.2	29.4	11.3
京都府	1.8	3.5	1.3	1.6	4.2	2.8	1.9	6.4	10.6	16.3	23.5	8.7
大阪府	1.8	2.5	1.3	1.5	3.8	2.2	1.7	6.5	9.9	17.0	21.2	8.8
兵庫県	1.2	3.5	1.0	1.3	4.4	2.0	1.4	6.4	11.4	17.3	26.9	8.4
奈良県	1.7	3.3	1.6	1.4	4.8	3.5	2.6	7.0	11.5	20.5	31.5	9.7
和歌山県	0.8	2.1	1.5	1.1	3.8	2.1	1.2	6.5	10.8	16.3	29.3	10.9
鳥取県	1.2	2.8	1.9	1.0	3.8	3.0	2.1	5.7	8.1	16.2	28.2	9.2
島根県	1.8	2.9	2.2	1.0	3.5	3.1	2.0	5.2	10.6	16.8	29.3	9.0
岡山県	1.6	2.0	1.5	1.3	4.1	2.7	2.1	6.0	10.1	17.0	30.2	9.1
広島県	2.1	3.0	1.4	1.4	4.9	3.0	1.6	6.0	10.1	16.1	27.9	9.9
山口県	1.6	3.1	1.7	1.8	4.1	3.0	2.3	6.7	10.7	16.9	31.1	9.6
徳島県	1.6	1.9	3.2	0.7	3.4	2.4	1.7	4.5	7.7	14.3	27.3	8.8
香川県	1.6	2.1	1.8	1.3	4.3	3.0	2.1	5.5	9.9	15.2	29.2	9.4
愛媛県	1.7	1.8	1.6	0.6	3.7	2.4	1.3	6.4	8.7	17.2	29.7	8.8
高知県	1.5	1.8	2.0	1.2	2.9	1.4	1.0	5.5	7.6	13.4	24.3	7.3
福岡県	1.6	2.2	1.5	1.5	4.1	1.9	1.1	6.5	9.4	15.1	23.8	7.2
佐賀県	1.8	1.7	2.0	1.3	4.5	2.5	1.1	5.3	8.1	15.9	26.9	8.4
長崎県	1.3	2.8	2.0	1.2	5.1	1.8	1.2	6.2	10.2	15.4	26.1	9.3
熊本県	1.3	2.0	2.0	1.7	3.7	2.0	1.0	5.2	8.3	16.6	26.9	8.2
大分県	2.2	1.5	2.0	1.1	3.7	1.6	1.5	5.1	9.1	17.7	27.2	7.8
宮崎県	0.8	1.8	1.3	1.0	4.3	1.8	1.1	5.3	7.8	16.5	27.1	9.2
鹿児島県	1.2	2.3	3.3	1.6	3.9	1.5	0.6	5.9	8.6	16.2	28.9	9.7
沖縄県	3.5	1.9	3.1	1.6	3.0	0.9	0.6	4.9	7.2	15.9	20.8	10.2

	絵画・彫刻 の制作	陶芸・工芸	写真の 撮影・ プリント	詩・和歌・ 俳句・小説 などの創作	趣味 としての 読書	囲碁	将棋	パチンコ	カラオケ	テレビゲー ム・パソコ ンゲーム (家庭で行う もの、携帯 用を含む)	遊園地、 動物園、 水族館 などの見物	キャンプ	その他
全国	3.2	2.2	25.0	2.2	39.5	1.3	3.4	10.0	29.0	33.3	31.5	5.5	6.6
北海道	2.7	1.9	24.2	2.0	39.4	1.9	3.4	12.5	29.6	35.7	28.4	8.4	7.2
青森県	1.9	1.8	16.6	1.6	31.0	1.0	2.9	10.7	22.8	27.6	19.1	4.9	5.0
岩手県	2.4	2.0	20.2	1.8	34.2	1.0	2.6	10.1	22.7	27.9	19.2	4.0	4.5
宮城県	3.0	2.4	25.3	2.1	41.6	1.1	4.5	11.7	30.7	32.9	27.0	4.1	6.1
秋田県	1.8	1.6	17.1	1.8	31.2	1.3	2.8	12.0	22.4	26.8	22.8	3.3	5.8
山形県	2.7	2.2	21.1	1.9	32.8	1.2	3.2	8.7	24.3	27.9	23.0	4.6	6.6
福島県	2.4	1.8	21.6	1.9	35.8	1.2	3.7	10.8	25.7	30.2	25.6	3.4	5.8
茨城県	3.0	2.3	23.5	2.1	36.7	1.7	3.5	9.7	27.7	32.0	30.6	3.9	6.6
栃木県	2.8	2.1	24.1	2.1	33.2	0.8	3.0	10.4	26.8	32.3	32.1	3.3	6.1
群馬県	2.5	2.0	24.1	2.0	36.5	1.0	3.3	9.4	28.9	31.4	30.2	4.8	5.7
埼玉県	3.4	2.2	27.2	2.3	42.3	1.1	3.6	8.4	31.5	35.1	34.7	5.6	6.7
千葉県	3.7	2.5	27.2	2.5	43.2	1.5	3.6	8.8	30.0	35.5	34.6	4.5	6.7
東京都	3.8	2.6	31.3	2.8	49.6	1.5	3.4	7.2	34.1	37.1	38.1	5.6	8.2
神奈川県	4.3	2.5	31.5	3.2	48.6	1.4	3.6	8.3	32.3	38.9	37.5	6.0	8.4
新潟県	2.0	1.3	18.7	1.3	32.2	0.6	2.7	9.1	23.6	28.8	23.7	2.9	6.8
富山県	3.3	2.6	21.1	2.4	36.9	1.6	4.1	11.0	26.1	29.8	31.1	4.3	5.5
石川県	2.5	1.4	21.5	2.2	35.7	1.1	2.7	11.2	27.8	32.8	29.9	3.4	5.9
福井県	2.2	1.9	19.4	1.9	32.4	1.0	3.5	13.2	24.9	31.1	27.7	4.0	6.1
山梨県	3.1	2.4	23.8	2.9	35.7	1.1	3.0	9.8	28.8	30.4	28.8	4.0	7.0
長野県	4.0	2.0	23.4	2.8	39.3	1.3	4.0	9.4	27.2	29.8	27.6	5.6	7.0
岐阜県	2.6	2.2	23.5	1.7	34.1	1.3	2.8	11.1	25.9	31.5	29.4	4.9	5.2
静岡県	2.8	1.9	22.4	2.1	36.1	1.1	3.2	11.9	25.6	31.6	32.7	5.4	5.5
愛知県	2.8	2.5	25.7	1.7	38.9	1.3	3.5	12.2	29.5	36.5	35.7	6.6	6.4
三重県	3.1	2.6	23.5	1.8	35.5	1.0	3.4	12.6	26.9	33.2	30.2	6.3	5.7
滋賀県	3.5	2.5	25.9	2.5	39.0	0.9	3.2	10.6	30.1	36.5	32.1	5.7	7.7
京都府	3.7	2.6	25.5	2.6	39.8	1.2	3.9	8.0	29.3	32.9	33.2	5.1	6.4
大阪府	3.3	2.5	25.9	1.9	38.7	1.6	4.0	10.2	31.2	35.7	31.8	7.4	6.6
兵庫県	3.3	2.3	26.5	2.0	41.1	1.6	4.2	9.1	27.3	33.7	34.3	5.2	6.2
奈良県	4.1	2.5	27.1	2.7	43.2	1.8	3.0	8.4	30.6	33.0	32.3	5.7	7.5
和歌山県	2.7	1.7	20.9	2.6	33.4	1.0	2.6	10.5	25.2	30.3	26.6	4.5	5.9
鳥取県	2.6	1.6	19.4	2.3	34.3	1.2	3.4	9.3	22.2	27.2	24.5	3.4	5.7
島根県	2.7	1.8	20.2	1.9	33.0	1.5	3.5	10.8	22.2	27.2	26.6	3.4	4.9
岡山県	3.2	2.1	21.7	2.0	35.1	1.7	3.5	9.0	24.5	31.9	27.2	4.5	6.4
広島県	3.3	2.0	25.3	1.7	38.8	1.4	3.5	11.3	28.3	33.3	34.2	6.5	7.3
山口県	3.0	1.6	23.5	1.9	37.5	1.6	3.2	10.5	26.6	29.8	28.8	4.3	6.4
徳島県	2.7	1.6	18.5	2.4	31.9	1.2	3.7	10.8	24.9	28.2	26.2	3.8	4.8
香川県	2.5	1.8	21.9	1.8	35.9	1.5	4.2	10.0	22.2	29.7	29.1	5.2	5.6
愛媛県	2.7	1.6	20.8	2.4	33.5	1.0	3.4	11.2	26.2	28.8	26.0	4.2	5.3
高知県	2.3	1.7	16.9	2.5	29.3	0.7	2.7	12.0	21.8	25.5	24.9	3.8	5.2
福岡県	3.1	2.0	22.0	2.1	37.5	1.3	2.9	11.6	29.5	31.0	27.4	6.0	6.1
佐賀県	1.9	1.7	18.7	1.5	31.0	1.1	2.7	11.1	23.6	28.4	24.5	3.4	5.1
長崎県	3.1	1.6	20.0	1.8	34.6	1.4	2.2	10.8	24.0	26.1	25.0	4.5	5.1
熊本県	2.5	1.7	21.8	1.4	31.3	0.6	2.2	13.1	27.4	27.7	26.3	5.3	5.2
大分県	2.4	1.7	20.7	2.3	32.1	1.4	2.7	11.6	26.0	28.6	26.6	4.8	5.0
宮崎県	2.3	1.5	20.2	2.0	31.2	1.0	2.8	13.9	26.3	26.5	27.3	5.9	4.5
鹿児島県	2.8	2.6	20.4	2.1	32.9	1.1	4.1	12.6	27.9	26.7	28.2	5.3	5.6
沖縄県	2.1	1.5	17.3	1.7	31.0	1.5	3.4	4.9	35.4	25.5	24.5	6.7	4.6

平成23年「社会生活基本調査」都道府県、趣味、娯楽の種類別行動者

平成23年 社会生活基本調査 調査対象 全国約8万世帯のふだん住んでいる10歳以上の世帯員（第1次抽出単位を平成17年調査の調査区とし、第2次抽出単位を世帯とする層化段抽出法）
 調査期日 平成23年10月20日（5年ごと）
 調査方法 調査員による調査票の配布及び収集

V 年次報告のまとめ（文化芸術振興審議会意見）

県の文化行政の基本的な指針を定めた「かながわ文化芸術振興計画」（平成26年3月に改定）において「重点施策」及び「基本的な施策」に位置付けられた各事業の実施状況等を取りまとめたものとして、平成28年11月15日開催の第19回審議会において、県から報告を受けたところである。

当審議会として報告を受けた内容について審査を行い、今後の計画に関する見直しを含めた課題等について、次のとおり意見を述べ、この年次報告のまとめとする。

1 施策効果の評価方法について

県が実施した事業についてよく取りまとめられており、分かりやすい報告となっているが、施策の効果に関する記載は、具体的な事例や数値を盛り込むと説得力が増す。

これまでは、計画に位置付けられた取組みがどの程度実施されたか、いわゆるアウトプットが中心に記載されているが、今後はどの程度目標を達成できたのか、いわゆるアウトカムを意識した記載が望まれる。

2 アウトリーチ活動等について

アウトリーチ、特に重要と認められる小中学生に対する文化芸術の体験機会の提供に関して、県自らの取組みだけでは十分な事業実施は不可能であることから、市町村や関係団体との役割分担を意識した取組みが不可欠だと思われる。

市町村との役割分担を議論するためにも県内の市町村が行った文化事業に関する調査及び資料の作成を検討されたい。

今後、県の役割は各市町村の取組みを進める事業に焦点を絞る等、県と市町村の役割分担を明確にする必要がある。

3 文化芸術事業の発信力の強化（マグカルブランド力の向上）について

文化芸術事業の発信力の強化として取り上げられている取組みとしては、神奈川芸術劇場での公演をはじめとした舞台芸術に関する取組みが非常に充実している一方で、美術館関係の動きが見えないなど、舞台芸術が目立った印象を受ける。

4 美術館の記載について

前回の報告書に比べ美術館関連の記載は増えているものの、県立近代美術館は中核施設の一つであり、閉館となった旧県立近代美術館鎌倉館本館を含めて、県民からの注目度も高いことから、さらなる記載の充実が望まれる。例えば、重点施策4（マグカルブランド力の向上）で取り上げていくことも方向性の一つである。

また、公的な施設では、美術館など文化全般について、来館者数に結び付き難くても、先進的な企画や展示が重要である。一方、経営面を考慮する必要もあるため、これまでどおり、先を見通した企画と、県民に馴染みのある企画とのバランスを取りながら運営していくことは妥当であると考えられる。

5 「かながわ文化芸術振興計画」の推進について

本年は、かながわ文化芸術振興計画の中間点に当たり、次期計画に向けて計画の施策体系や県の果たすべき役割に関して、上記の考え方を参考に課題を整理していくことが必要である。

重点施策に掲げられた項目については概ね安定した取組みが進められているが、引き続き、「真にゆとりと潤いの実感できる心豊かな県民生活の実現」「個性豊かで活力に満ちた地域社会の発展」という2つの基本目標の実現に向け、重点施策を中心に、計画に位置付けられた各事業が着実に推進されることを期待する。